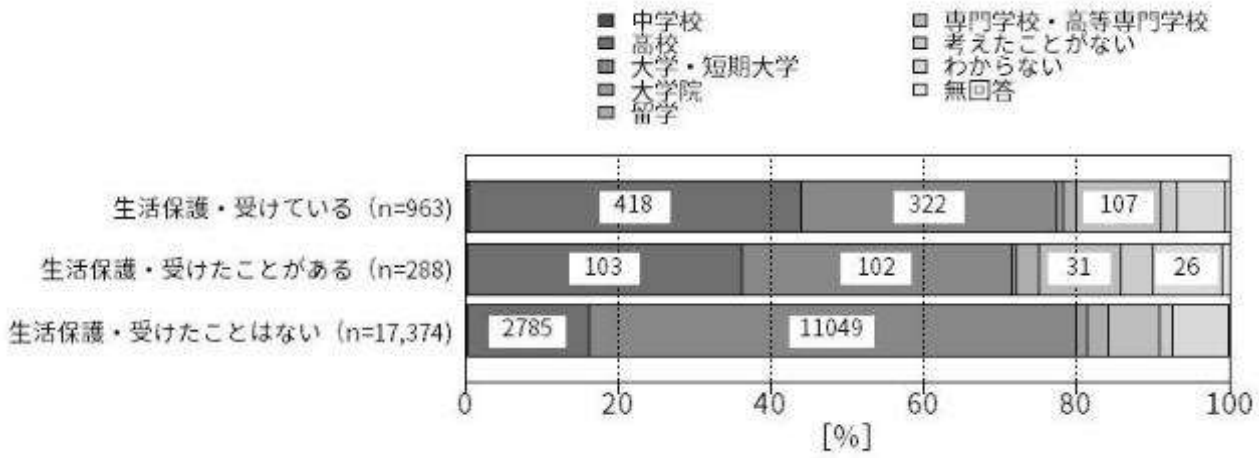
生活保護の受給別に見た、子どもに希望する進学先
（保護者票　問 30(3)⑤ × 保護者票　問 15）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

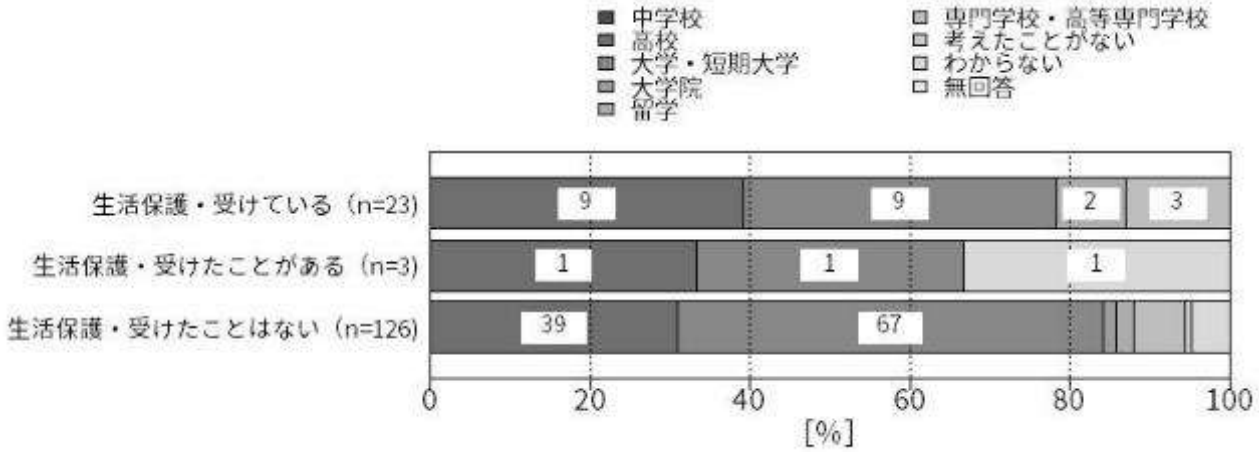


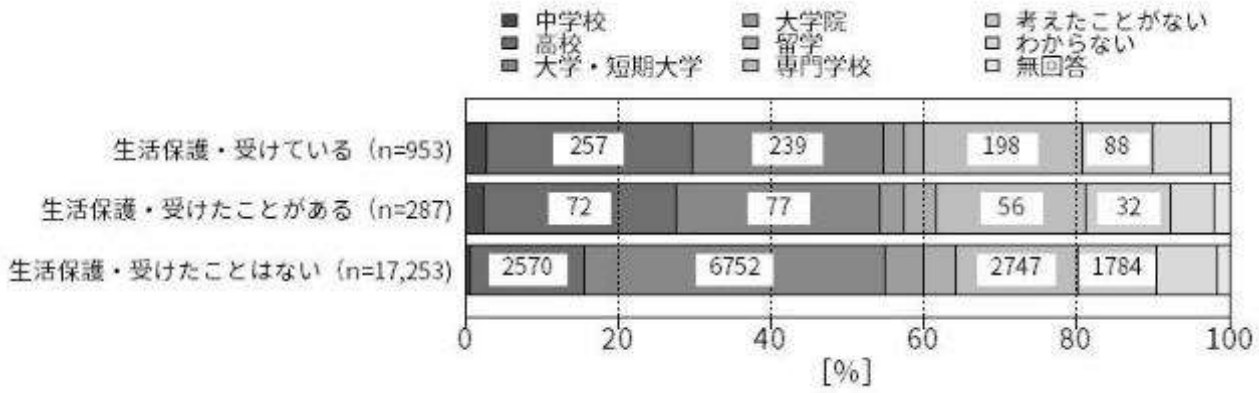
図 149．生活保護の受給別に見た、子どもに希望する進学先

生活保護を受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、子どもに希望する進学先を「大学・短期大学」と回答した保護者が 39.1%、生活保護を受けたことがない世帯では 53.2%であった。

生活保護の受給別に見た、希望する進学先（保護者票　問 30(3)⑤ × 子ども票　問 27）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

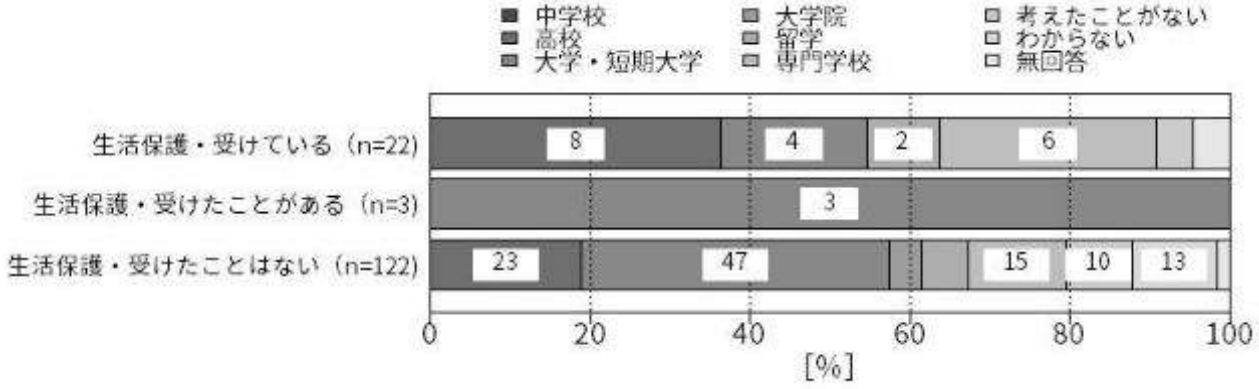


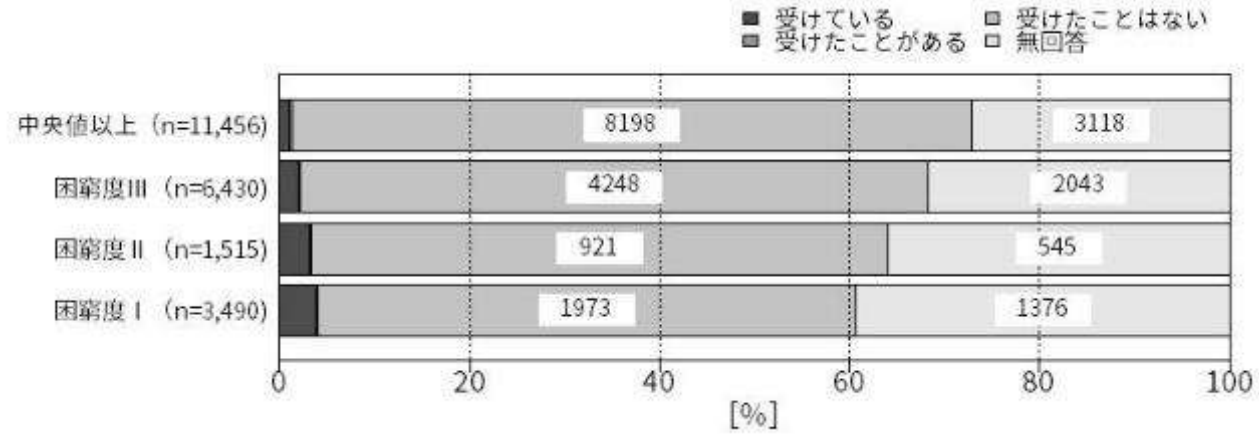
図 150. 生活保護の受給別に見た、希望する進学先

生活保護を受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。

生活保護を受けている世帯では、希望する進学先を「大学・短期大学」と回答した子どもが 18.2%、生活保護を受けたことがない世帯では 38.5%であった。

困窮度別に見た、公的年金（遺族年金、障がい年金）（保護者票　問 30(3)⑦）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

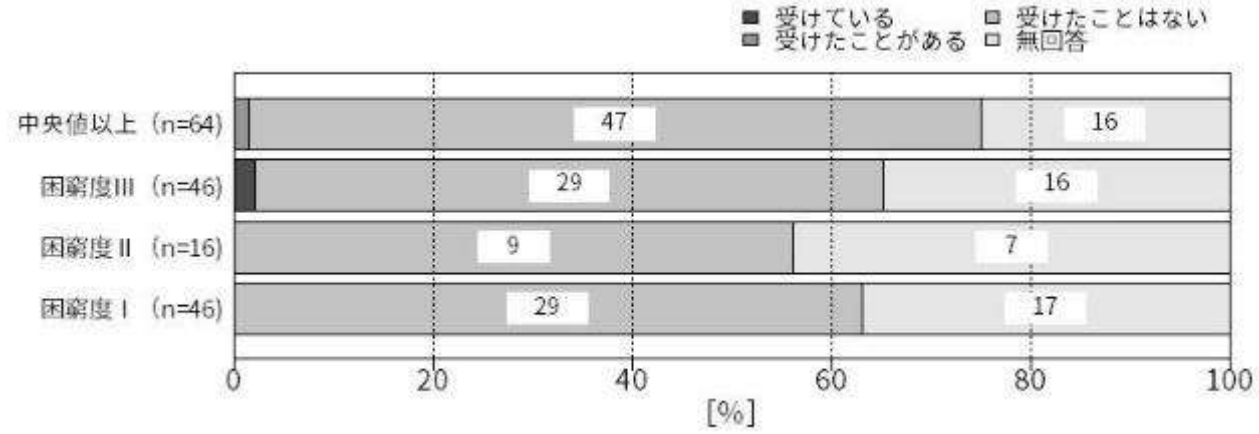
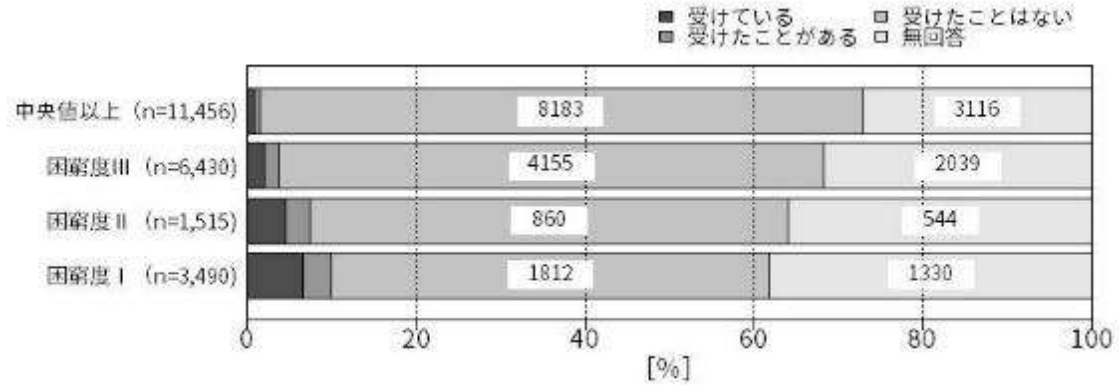


図 151. 困窮度別に見た、公的年金（遺族年金、障がい年金）

困窮度別に遺族年金や障がい年金といった公的年金の受給率を見ると、無回答の割合が 25.0%～43.8%であり、困窮度が高まるにつれてその割合が高まる傾向にあった。

困窮度別に見た、養育費（保護者票　問 30(3)⑨）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

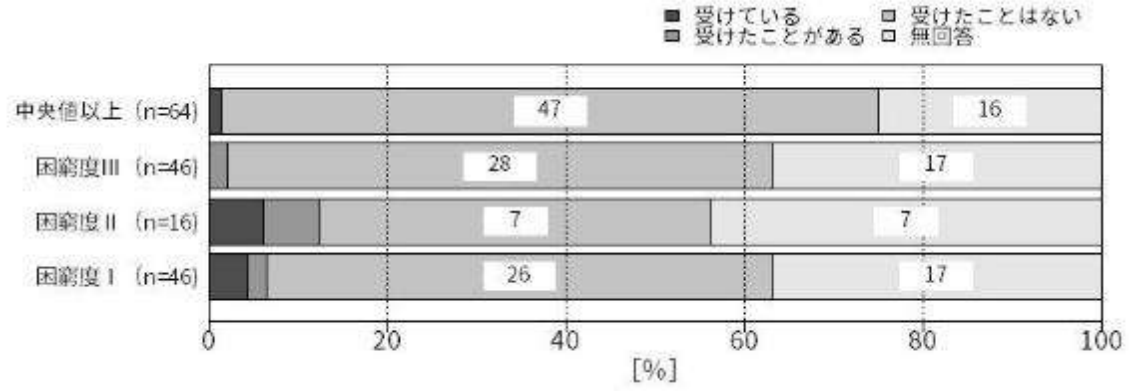


図 152. 困窮度別に見た、養育費

困窮度別に養育費の受給率を見ると、困窮度 I 群においては「受けている」と回答した人は 4.3%であった。

さらに、以下に、ひとり親世帯のなかでの養育費の受給状況を示す。困窮度 I でも「受けたことがない」が 54.8%を占め、無回答が 35.5%も占める。

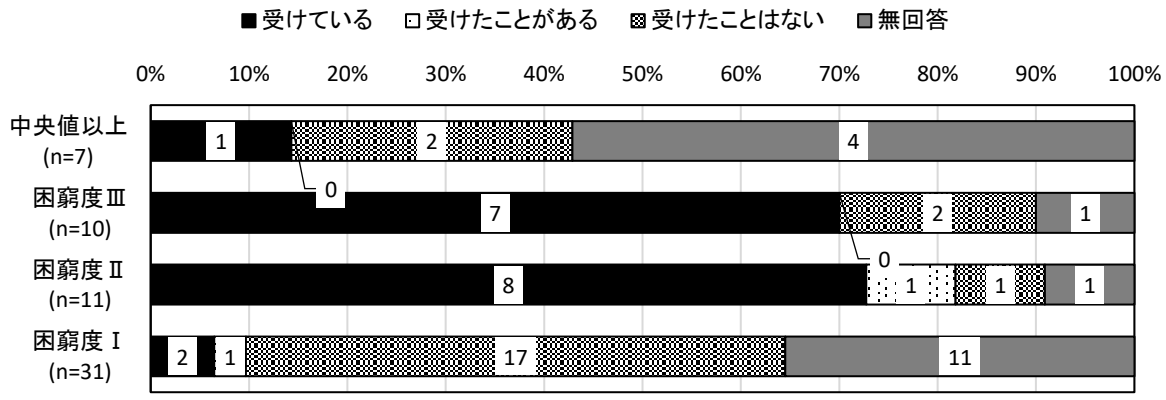
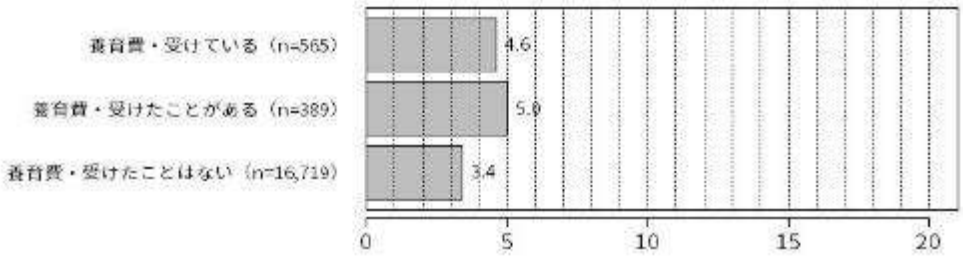


図 152 の補足図. 困窮度別に見た、養育費（ひとり親）

養育費の受給別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均
（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　問 7）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

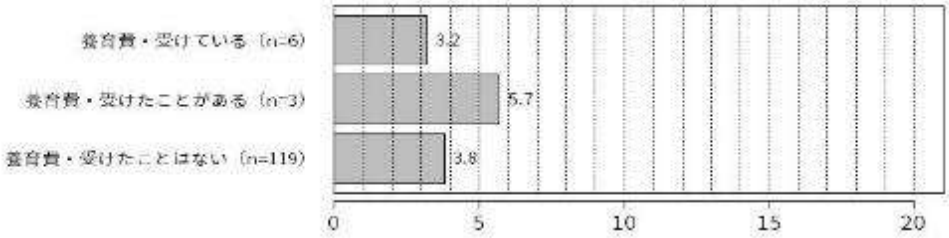
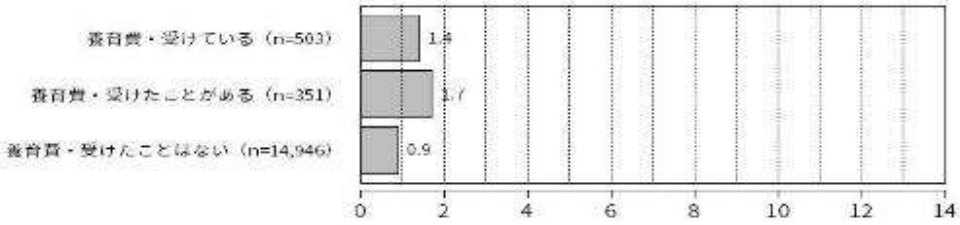


図 153. 養育費の受給別に見た、経済的な理由による経験の該当数の平均

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。養育費を受けたことがある世帯では、経済的な理由による経験の該当数平均は 5.7 個であった。

養育費の受給別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均
（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　問 13）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

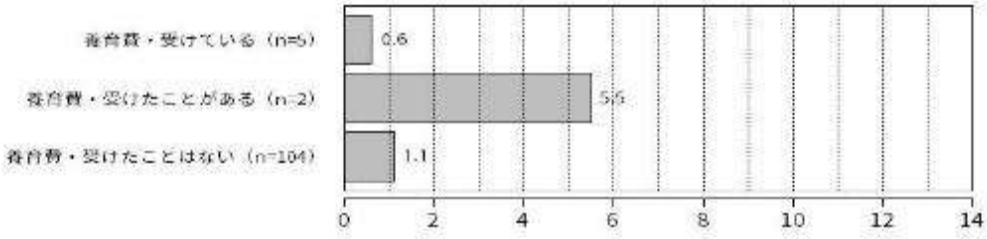
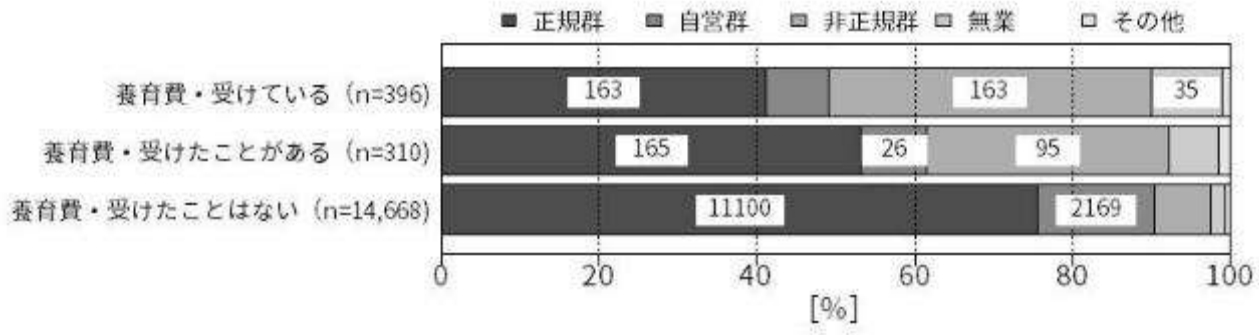


図 154. 養育費の受給別に見た、子どもへの経済的な理由による経験の該当数の平均

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。養育費を受けたことがある世帯では、経済的な理由による経験の該当数平均は 5.5 個であった。

養育費の受給別に見た、就労状況（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　就労状況）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

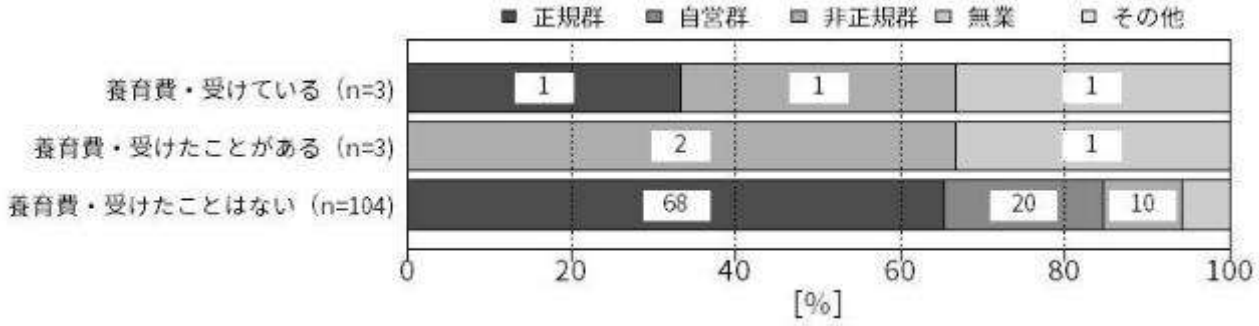


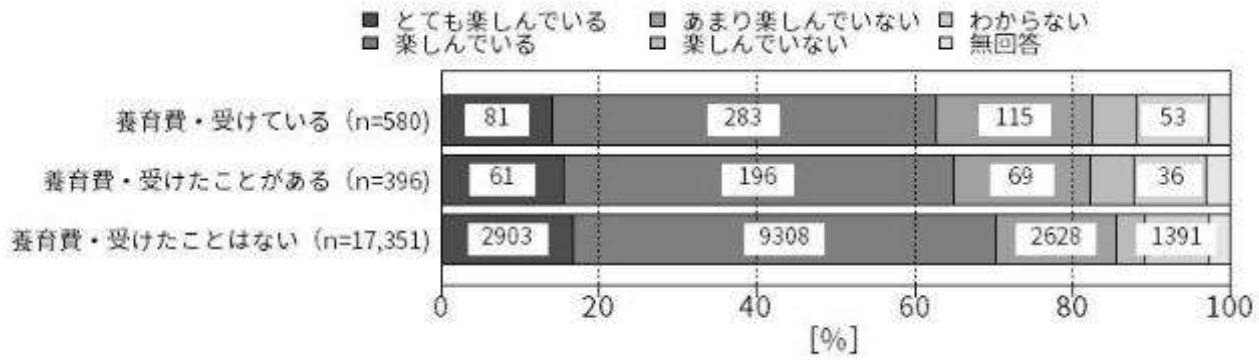
図 155. 養育費の受給別に見た、就労状況

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。

養育費を受けている世帯では、「非正規群」が 33.3%、「無業」が 33.3%、養育費を受けたことがある世帯ではそれぞれ 66.7%、33.3%、養育費を受けたことがない世帯では 9.6%、5.8%であった。養育費を受けたことがない家庭では、正規群が 65.4%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）
（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　問 25(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

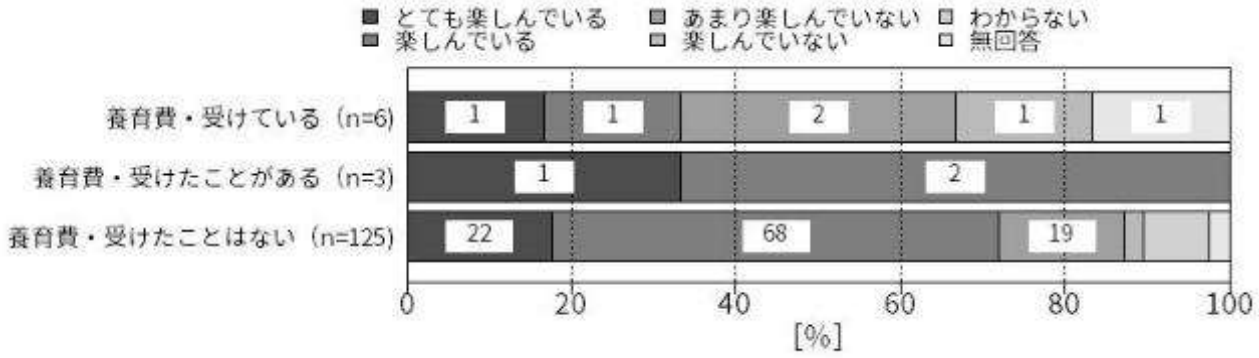


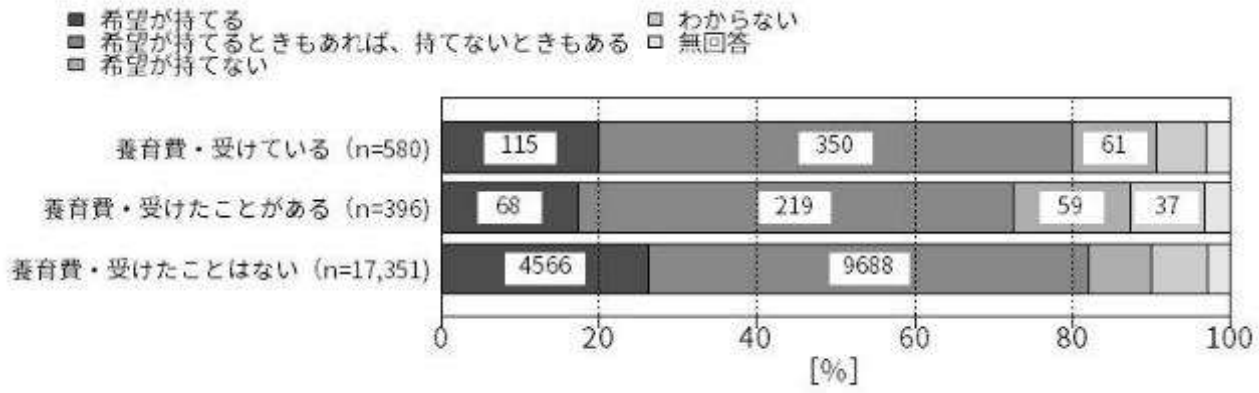
図 156. 養育費の受給別に見た、心の状態（生活を楽しんでいるか）

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。

養育費を受けたことはない世帯では、17.6%がとても楽しんでいると回答していた。

養育費の受給別に見た、心の状態（将来への希望）
（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　問 25(2)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

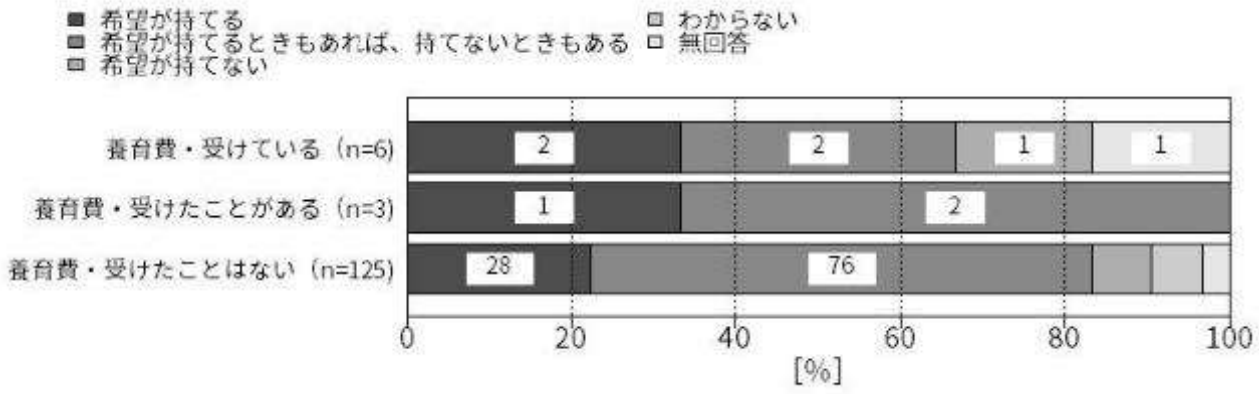


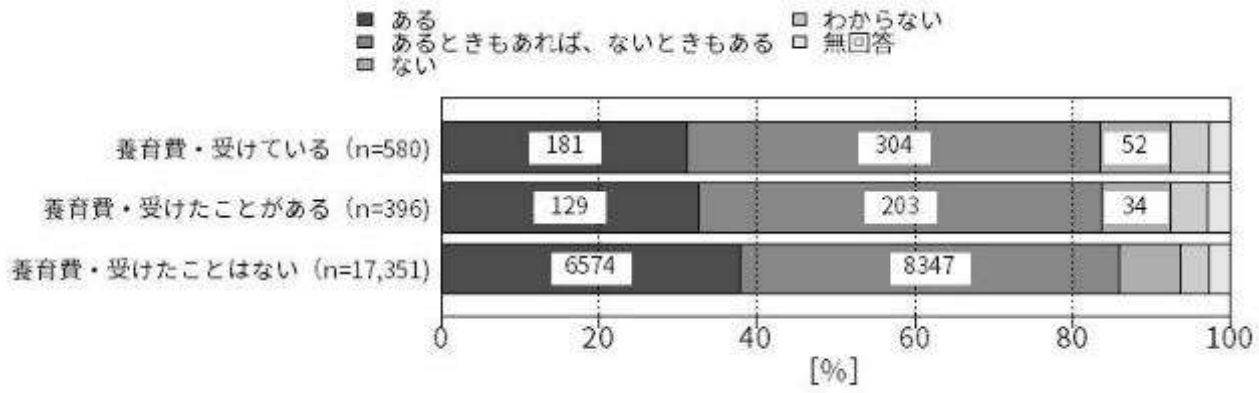
図 157. 養育費の受給別に見た、心の状態（将来への希望）

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。

養育費を受けたことはない世帯では、「希望が持てない」が 7.2%であった。

養育費の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）
（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　問 25(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

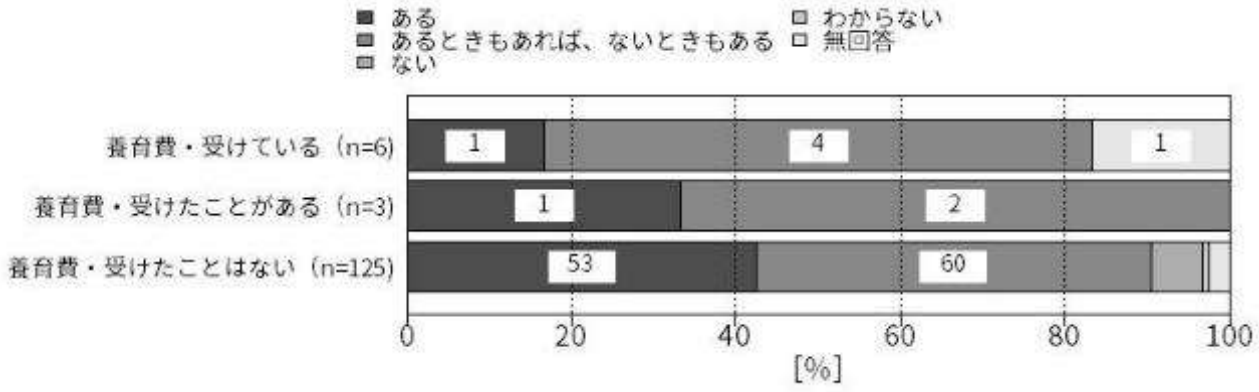
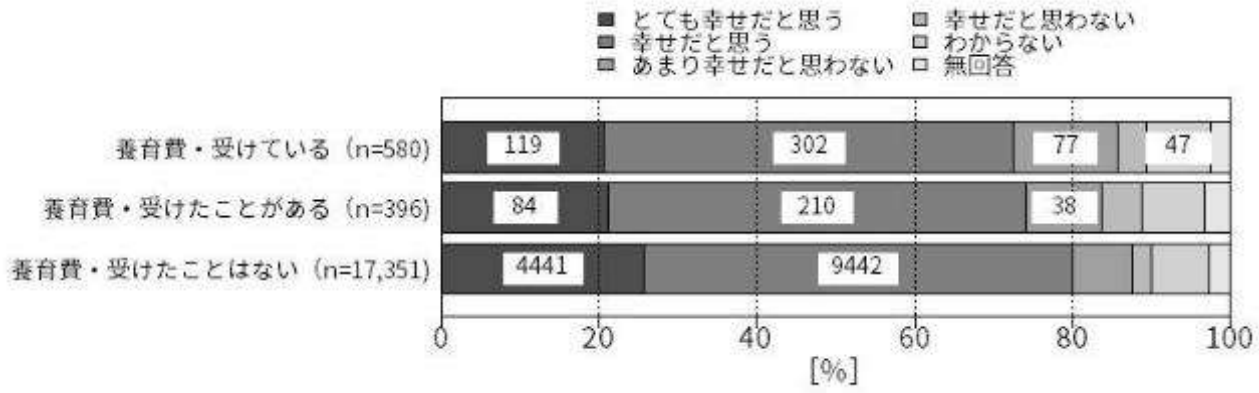


図 158. 養育費の受給別に見た、心の状態（ストレス発散できるもの）

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。
養育費を受けたことはない世帯では、42.4%が「ある」と回答していた。

養育費の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）
（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　問 25(4)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

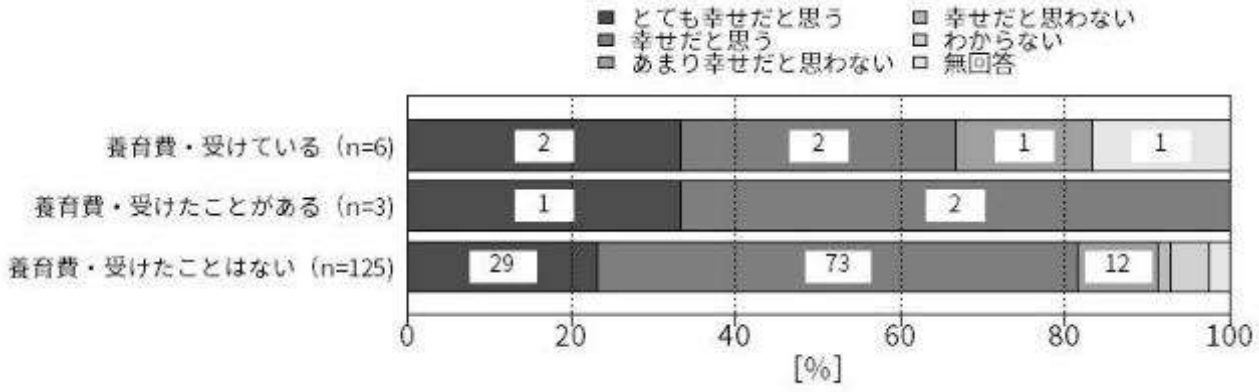


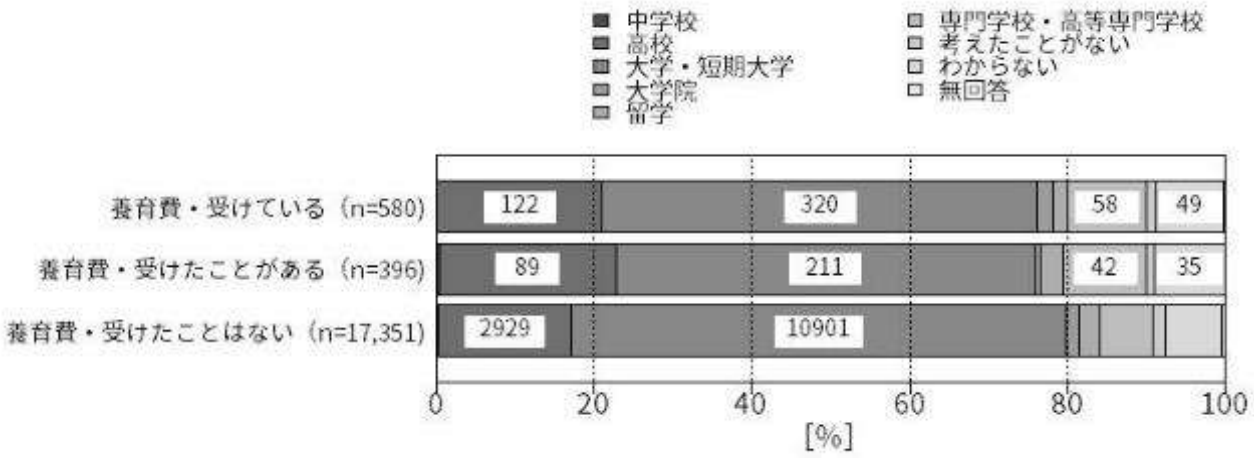
図 159. 養育費の受給別に見た、心の状態（幸せだと思うか）

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。

養育費を受けたことはない世帯では、「幸せだと思わない」が 1.6%であった。

養育費の受給別に見た、子どもに希望する進学先
（保護者票　問 30(3)⑨ × 保護者票　問 15）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

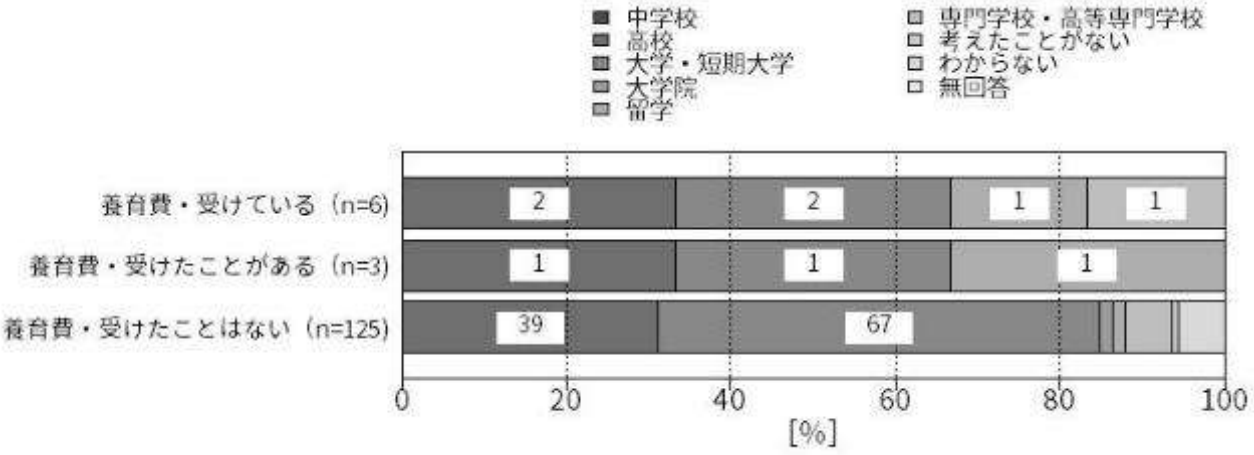


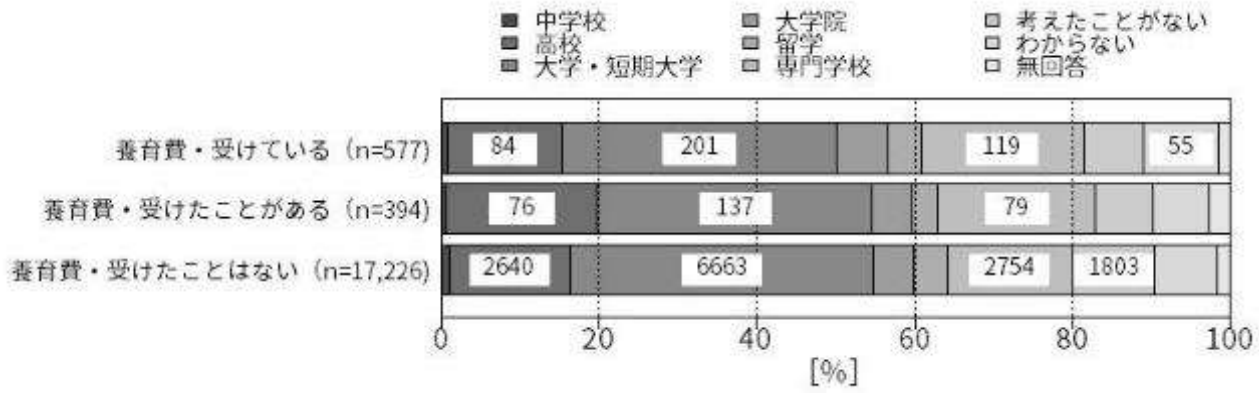
図 160. 養育費の受給別に見た、子どもに希望する進学先

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。

養育費を受けたことはない世帯では、「大学・短期大学」が 53.6%であった。

養育費の受給別に見た、希望する進学先（保護者票　問 30(3)⑨ × 子ども票　問 27）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

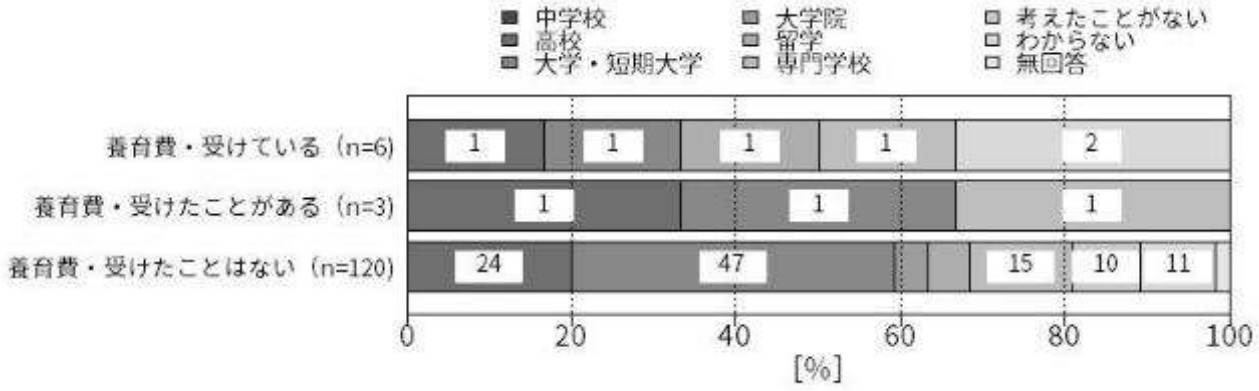


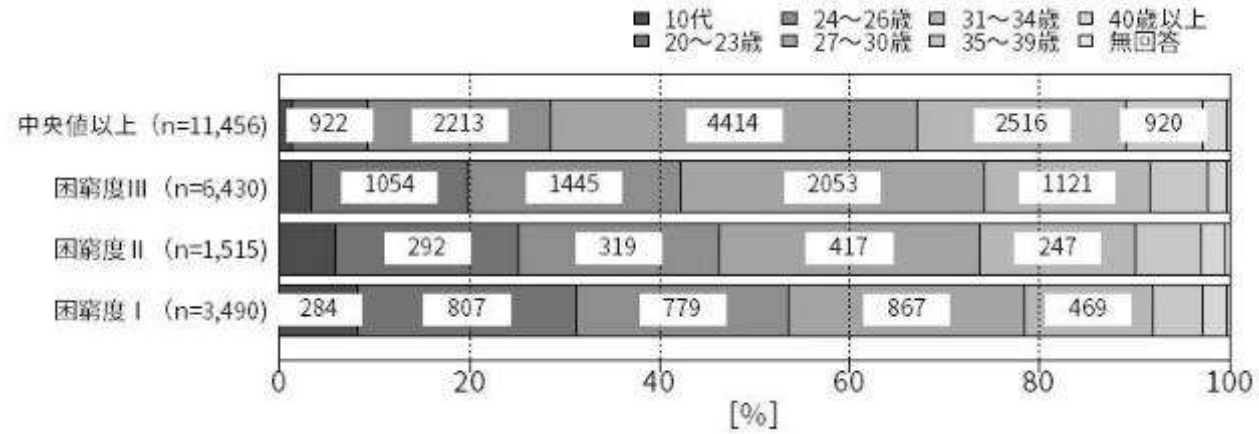
図 161. 養育費の受給別に見た、希望する進学先

養育費を受けている世帯と受けたことがある世帯が少数のため、傾向を述べることはできない。

養育費を受けたことはない世帯では、「大学・短期大学」が 39.2%であった。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票　問 22）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

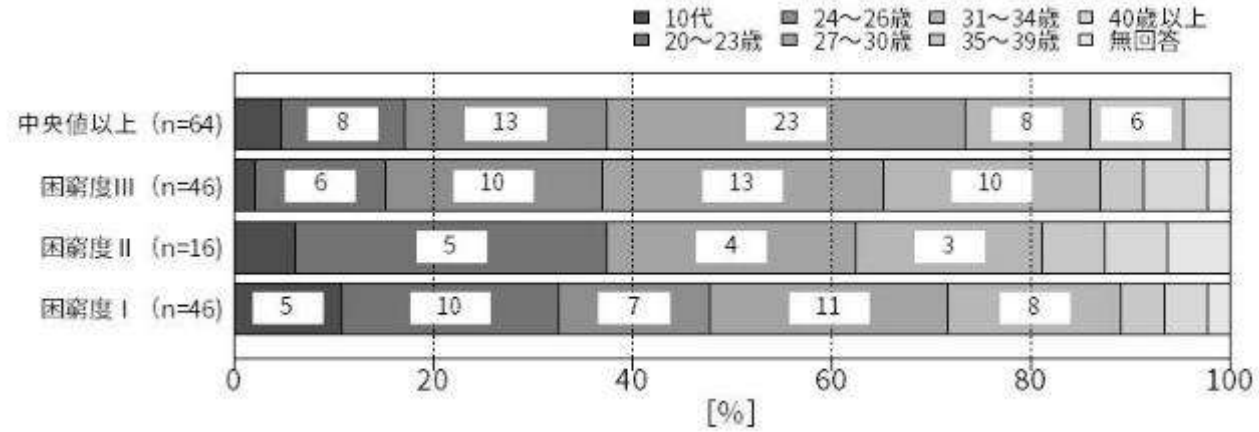
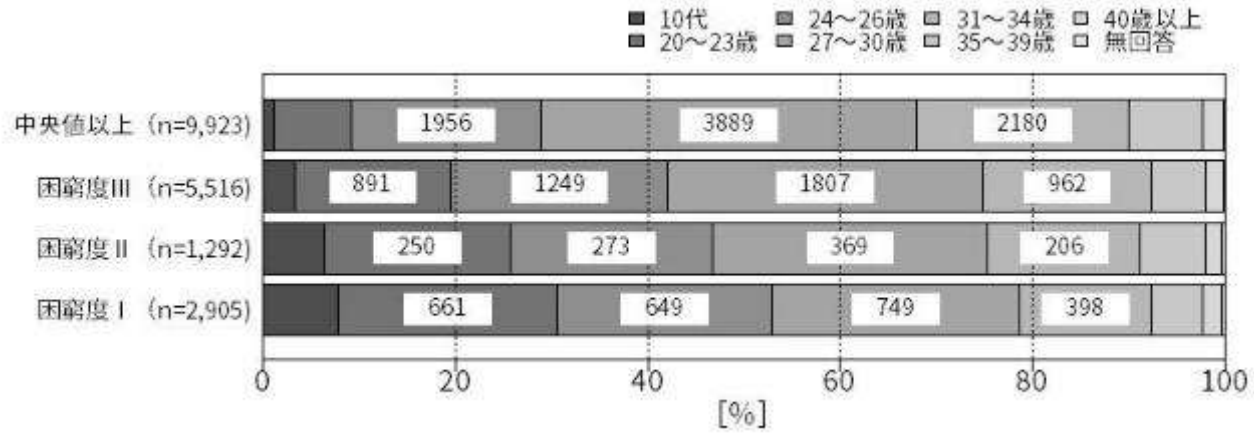


図 162. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢

全ての回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度 I 群で 10 代で初めて親となったと答えた割合は 10.9%であった。

困窮度別に見た、初めて親となった年齢（保護者票　問 22）
※母親が回答者の場合に限定

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

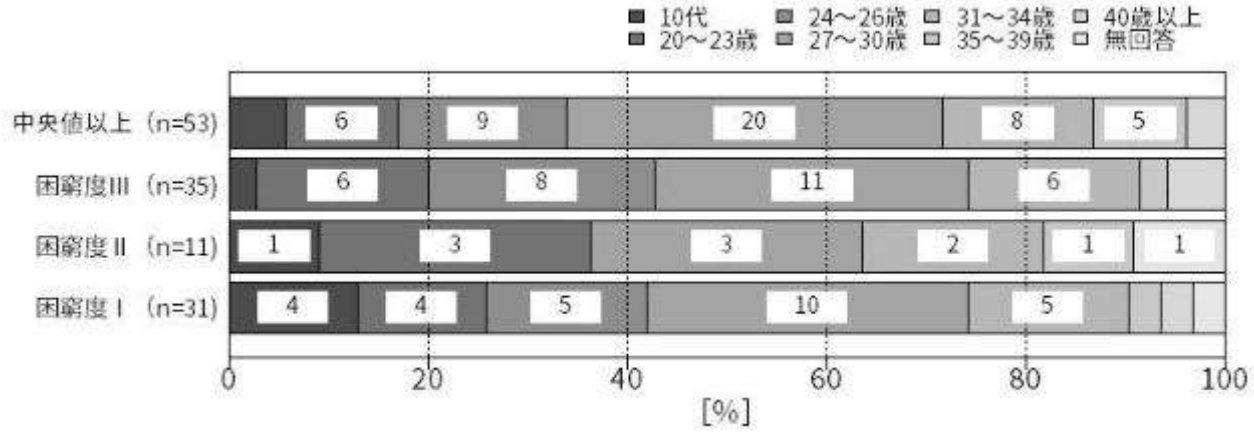
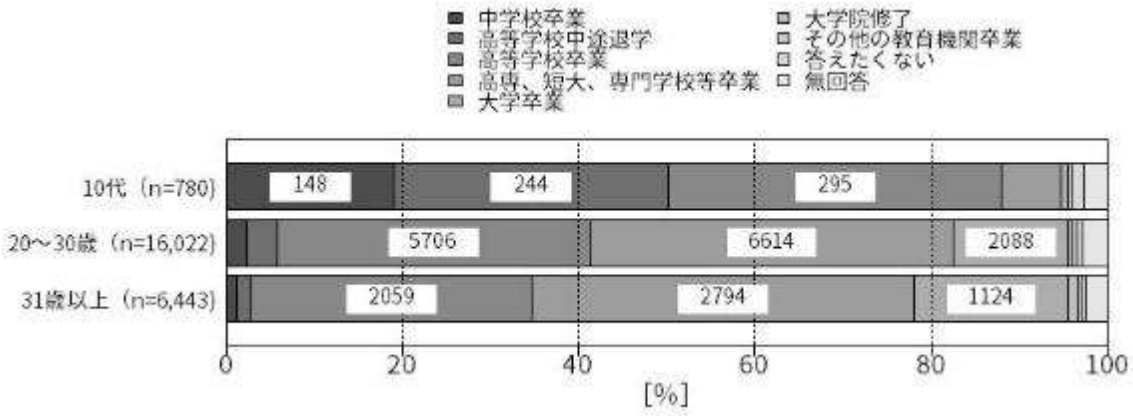


図 163. 困窮度別に見た、初めて親となった年齢
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度 I 群で 10 代で初めて親となったと答えた割合は 12.9%であった。若くして母親となった人ほど、経済的な問題を抱えている可能性が考えられる。

初めて親となった年齢別に見た、母親の最終学歴（保護者票　問 22 × 保護者票　問 8）
※母親が回答者の場合に限定

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

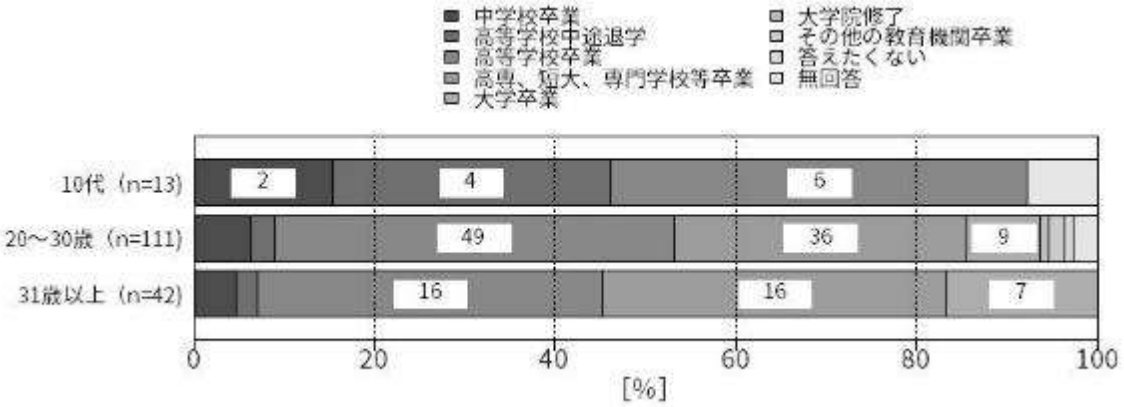


図 164. 初めて親となった年齢別に見た、母親の最終学歴
※母親が回答者の場合に限定

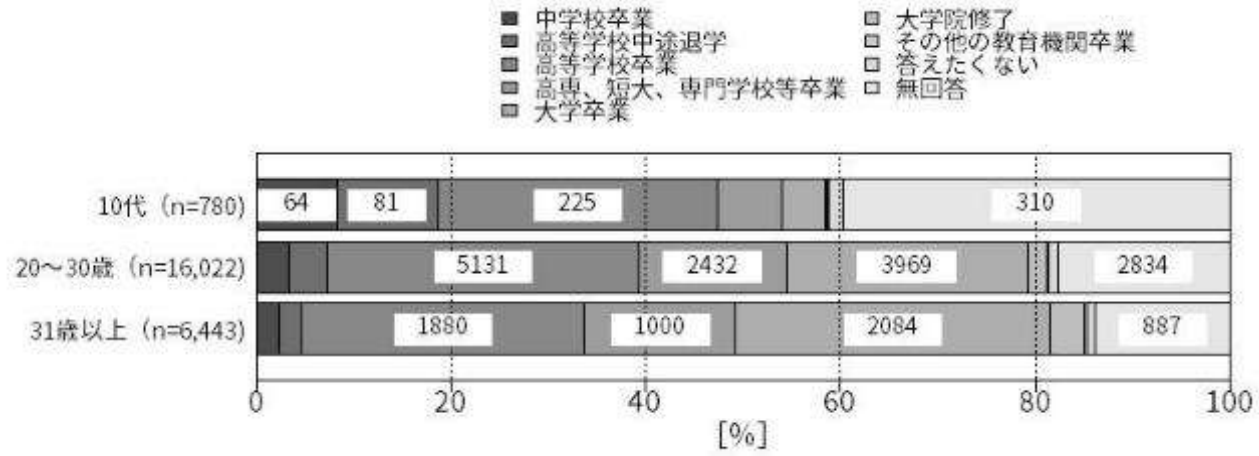
「初めて親となった年齢」を基準に、10 代で初めて親となった 10 代群、平均出産年齢以下の年齢ではじめて親となった平均以下群（20～30 歳）、平均出産年齢以上の年齢ではじめて親となった平均以上群（31 歳以上）を設けた（平均出産年齢については下記 URL を参照）。母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に母親自身の最終学歴を見ると、10 代群において「中学校卒業」と答えた割合は 15.4%であり、「高等学校中途退学」と回答した割合は 30.8%であった。

平均出産年齢：

http://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/whitepaper/measures/w-2013/25webhonpen/html/b1_s1-1.html

初めて親となった年齢別に見た、父親の最終学歴（保護者票　問 22 × 保護者票　問 8）
※母親が回答者の場合に限定

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

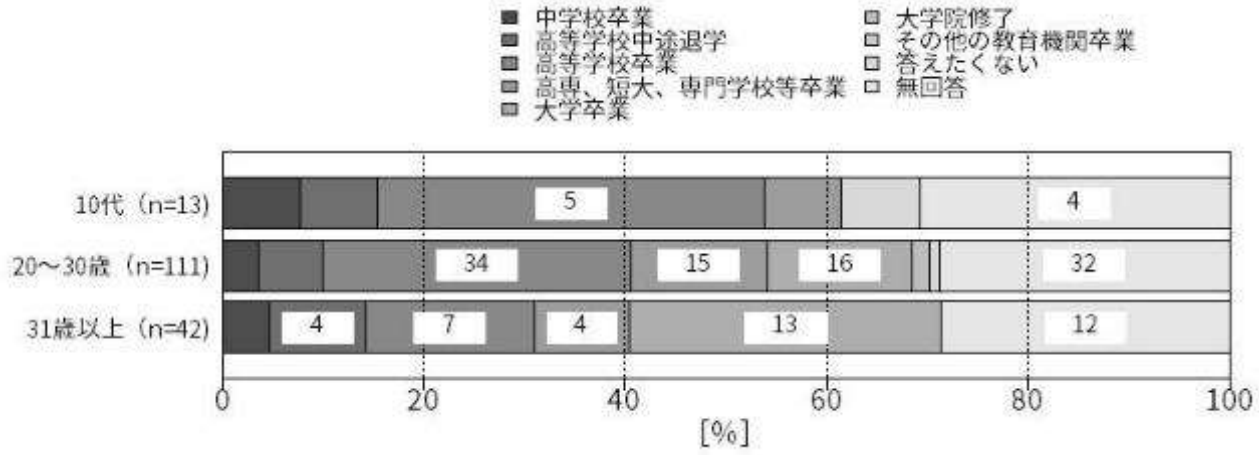
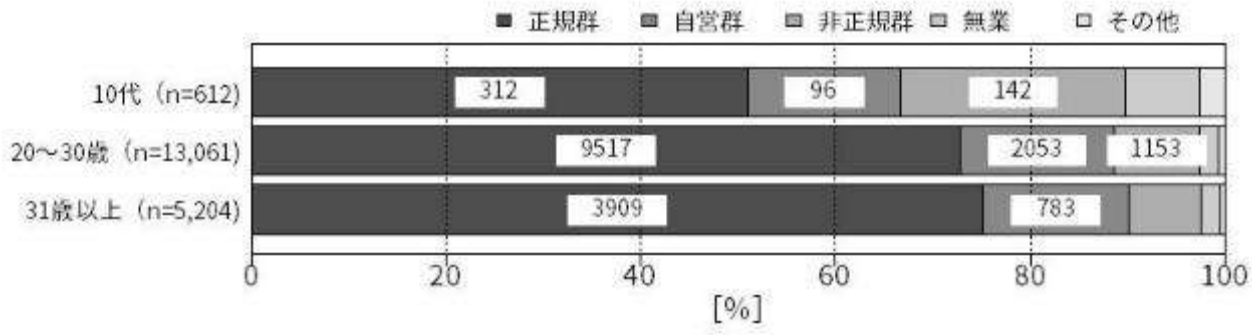


図 165. 初めて親となった年齢別に見た、父親の最終学歴
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に父親の最終学歴を見ると、10 代群において「中学校卒業」と答えた割合は 7.7%であり、「高等学校中途退学」と回答した割合は 7.7%であった。

初めて親となった年齢別に見た、就労状況（保護者票　問 22 × 保護者票　就労状況）
※母親が回答者の場合に限定

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

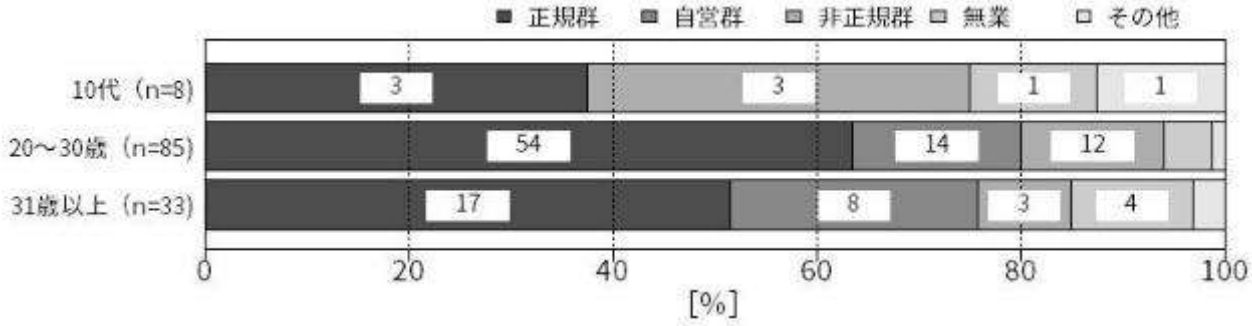
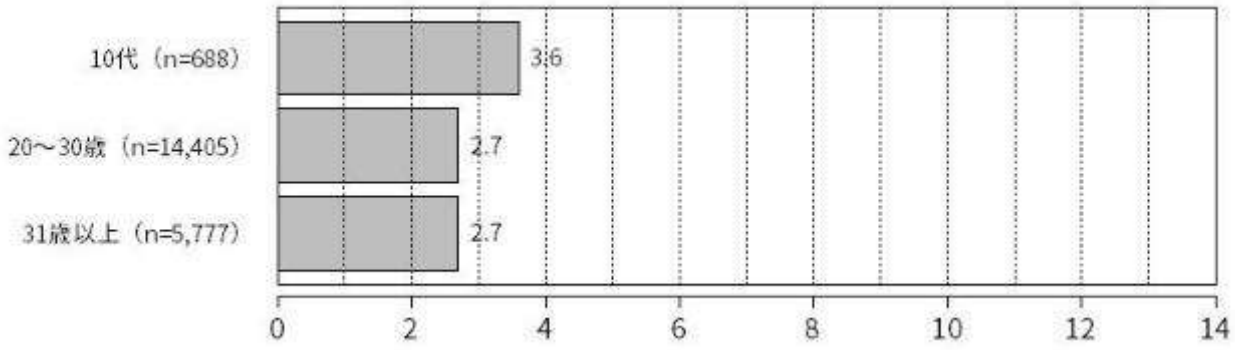


図 166. 初めて親となった年齢別に見た、就労状況
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に就労状況を見ると、10 代群は「正規群」が 37.5%、「非正規群」の割合が 37.5%であった。。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
（保護者票　問 22 × 保護者票　問 26）　※母親が回答者の場合に限定

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

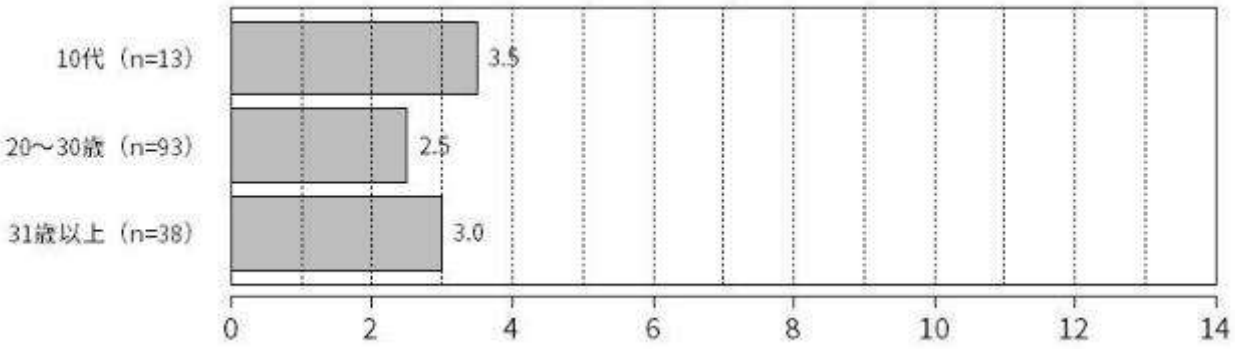
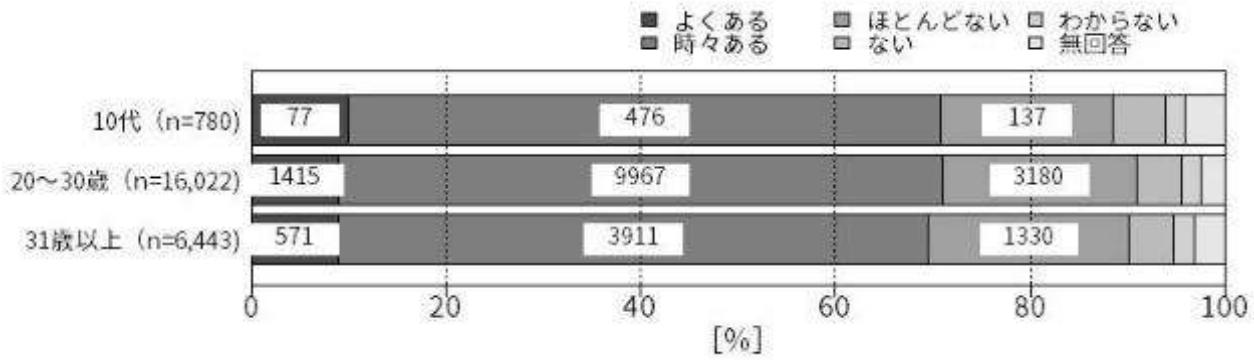


図 167. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10 代群は 3.5 個であった。

初めて親となった年齢別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと
（保護者票　問 22 × 保護者票　問 27）　※母親が回答者の場合に限定

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

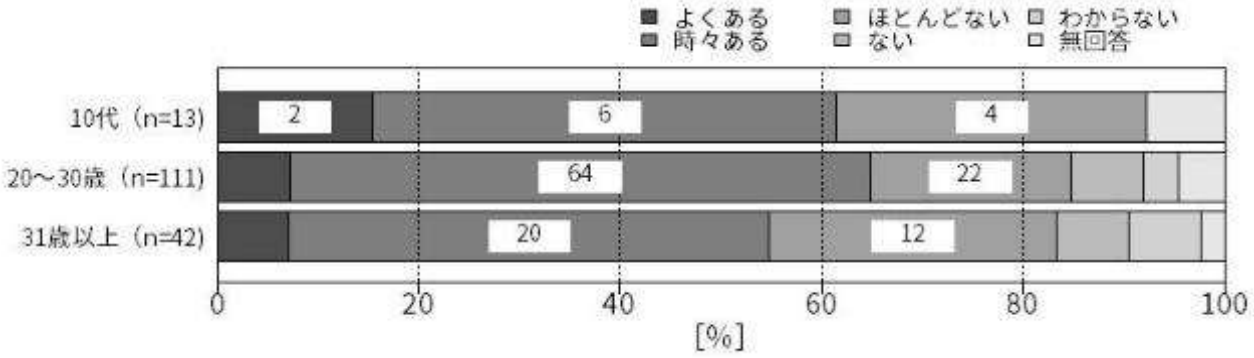
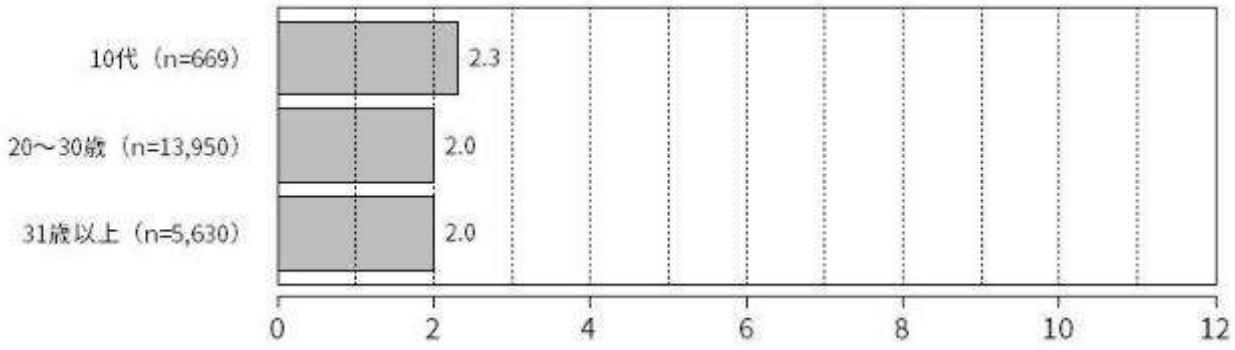


図 168. 初めて親となった年齢別に見た、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうこと
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことを見ると、10 代群は、「よくある」と回答した割合は 15.4%であった。

初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
（保護者票　問 22 × 子ども票　問 24）　※母親が回答者の場合に限定

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

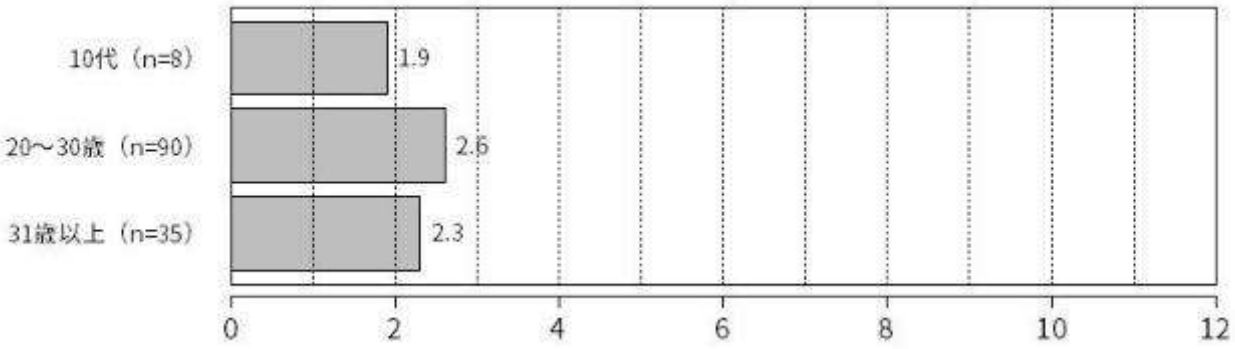
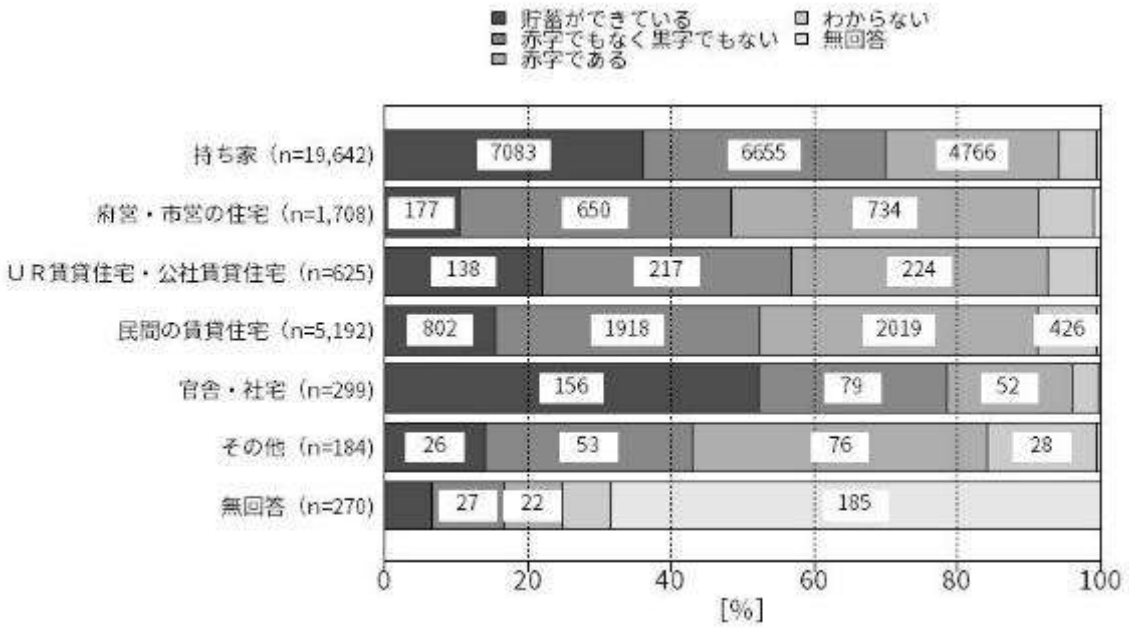


図 169. 初めて親となった年齢別に見た、自分の体や気持ちで気になること
※母親が回答者の場合に限定

母親回答者を対象として、初めて親となった年齢の各群別に子どもが自分の体や気持ちで気になることの該当数を見ると、10 代群では 1.9 個であった。

住居別に見た、家計状況（保護者票　問 4 × 保護者票　問 6(1)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

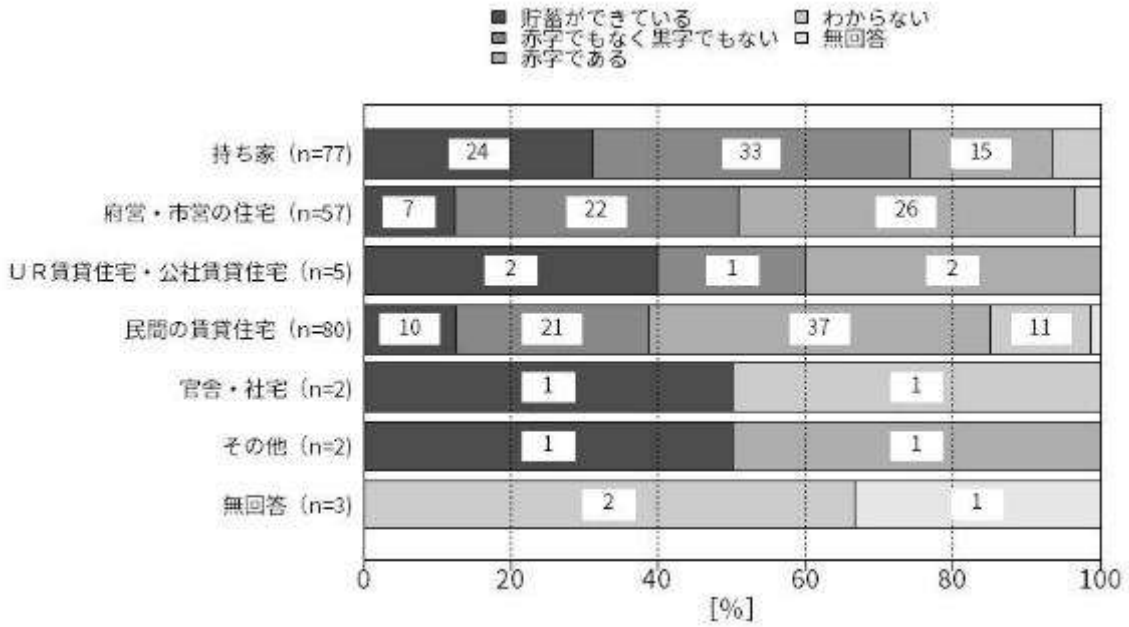
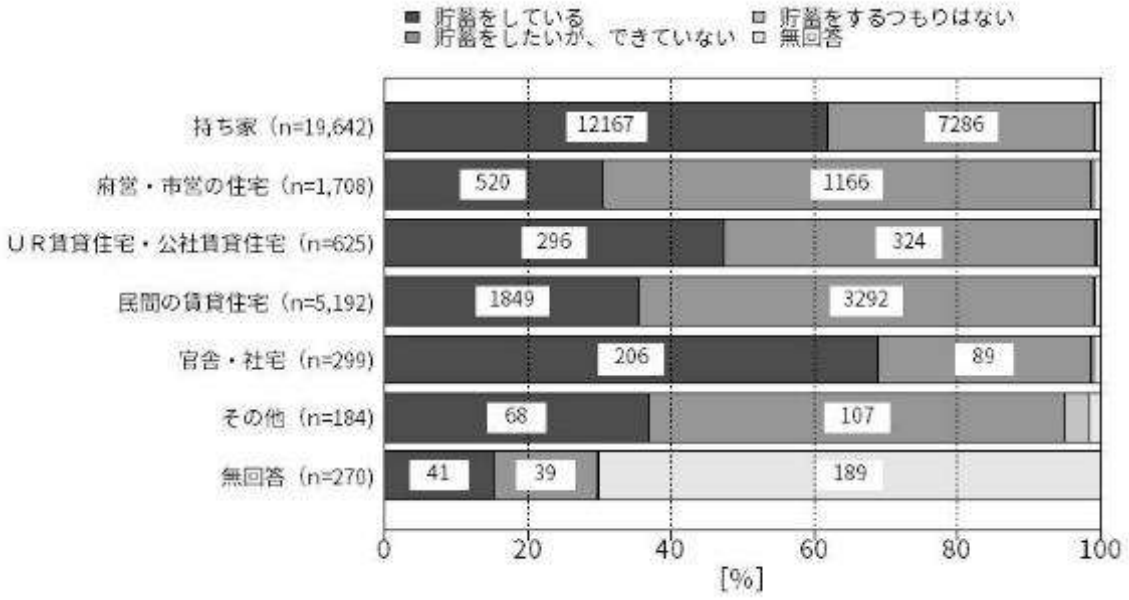


図 170. 住居別に見た、家計状況

「赤字であった」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅に住む人では 45.6%、UR 賃貸住宅・公社賃貸住宅に住む人では 40.0%、民間の賃貸住宅に住む人では 46.3%であった。また、持ち家に住む人で「赤字であった」と回答した割合は 19.5%であった。

住居別に見た、子どものための貯蓄（保護者票　問 4 × 保護者票　問 6(3)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

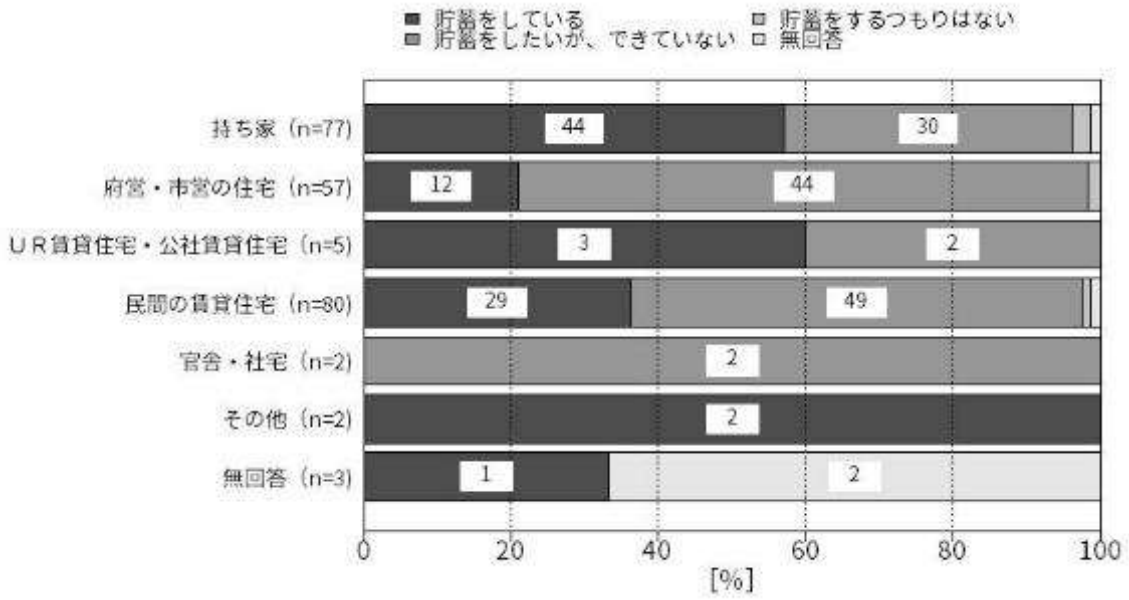


図 171. 住居別に見た、子どものための貯蓄

「貯蓄したいが、できていない」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅に住む人では 77.2%、UR 賃貸住宅・公社賃貸住宅に住む人では 40.0%、民間の賃貸住宅に住む人では 61.3%であった。また、持ち家に住む人で「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合は 39.0%であった。

＜家庭状況に関する考察＞

社会保障給付の利用状況についてみると、困窮度Ⅰ群において、すべての子どもが受給するはずの児童手当が 8 割にとどまっているのが本区の特徴である。困窮度別に就学援助費の受給率を見ると、困窮度Ⅰ群で 63.0%、Ⅱ群で 56.3%となっている。全体の傾向は市全体と大きな差はない。ひとり親世帯対象の児童扶養手当の利用状況については、困窮度Ⅰにおいて「受けたことがない」との回答も見られる。生活保護の受給率では、困窮度Ⅰ群においては「受けている」と回答した人は 19.6%にとどまった。以下、生活保護世帯における特徴を挙げる。生活保護世帯は、生活を「楽しんでいない」、将来に対しては、「希望が持てない」、ストレスを発散できるものが「ない」、「幸せだと思わない」、「相談できる相手がいない」との回答が生活保護を受けたことがない世帯よりも高い結果が示されている。また生活保護世帯では、不安やイライラなどの感情を子どもに向けてしまうことが「よくある」と回答した割合はそれ以外の世帯よりも高く、子育て支援の必要性が示されている。さらに、子どもとの関係における生活保護世帯の特徴は、おうちの大人の人に宿題（勉強）をみてもらうことが「まったくない」など、大人との関わりが少ない傾向が確認されている。また、授業時間以外に勉強を「まったくしない」と回答した子どもの割合も高く、「学習塾等、習い事はしていない」と回答した子どもの割合も高い。生活保護世帯では、学校の勉強を「あまりわからない」「ほとんどわからない」の合算した割合と回答した子どもの割合は 4 割近くに達している。子どもの自己効力感（セルフ・エフィカシー）が低い。親の子どもに希望する進学先の希望が低い。子どもも、進学希望が低い。養育費の受給状況についてはサンプル数が少ないため言及しない。

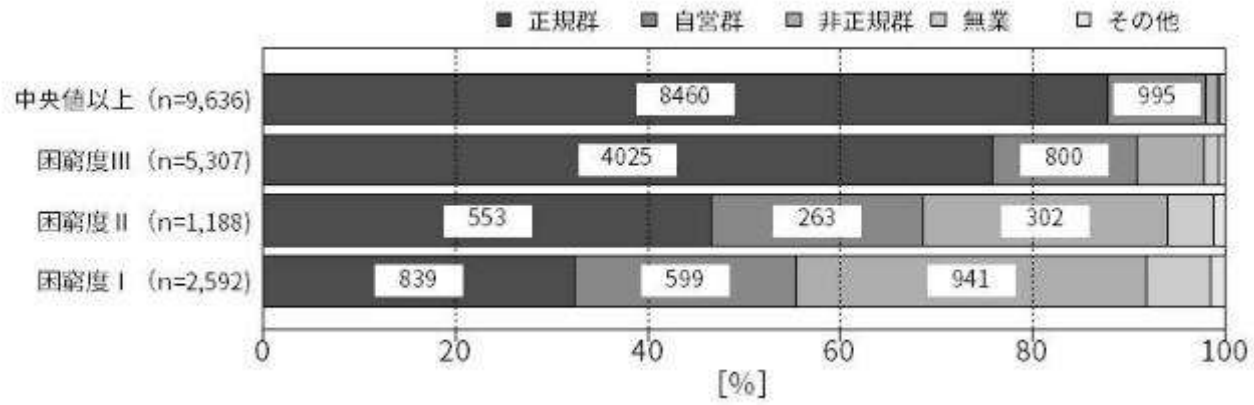
母親回答者を対象として、困窮度別に初めて親となった年齢を見ると、困窮度が高まるにつれ、10 代の割合が高まる。10 代と回答した人の特徴は、中卒および高校中退の割合が高い、非正規の割合が高い、などが挙げられる。

「赤字である」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅（45.6%）、民間の賃貸住宅（46.3%）で高かった。また、持ち家に住む人で「赤字である」と回答した割合は 19.5%であった。「貯蓄したいが、できていない」と回答した人の割合を住居別に見ると、府営・市営の住宅（77.2%）、、民間の賃貸住宅（61.3%）で高かった。また、持ち家に住む人で「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合は 39.0%であった。

３－２．雇用

困窮度別に見た、就労状況（保護者票　就労状況）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

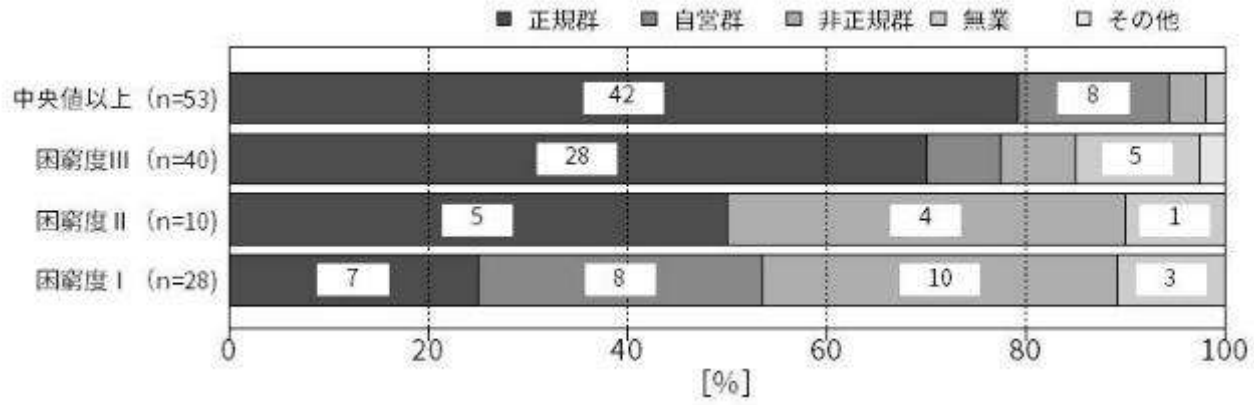


図 172．困窮度別に見た、就労状況

困窮度別に就労状況を見ると、困窮度が高まるにつれ、「正規群」の割合が低くなり、「自営群」・「非正規群」の割合が高くなる傾向にある。困窮度Ⅰ群では「正規群」の割合が 25.0%、「非正規群」の割合が 35.7%となっていた。※就労形態は以下のように分類している。

父母あるいは主たる生計者に正規が含まれれば「正規群」（問９選択肢１）、

上記以外で、父母あるいは主たる生計者に自営が含まれれば「自営群」（問９選択肢４）、

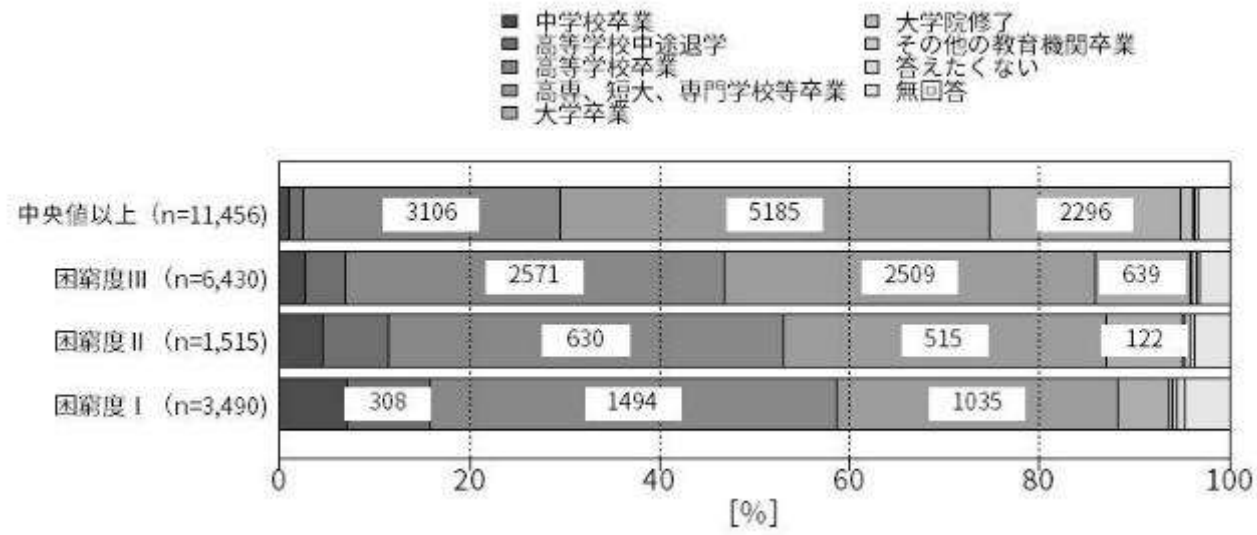
上記以外で、父母あるいは主たる生計者に非正規が含まれれば「非正規群」（問９選択肢２、３）、

上記以外で、誰も働いていなければ（問９選択肢６、７）無業。

上記以外がその他　となる。

困窮度別に見た、母親の最終学歴（保護者票　問 8）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

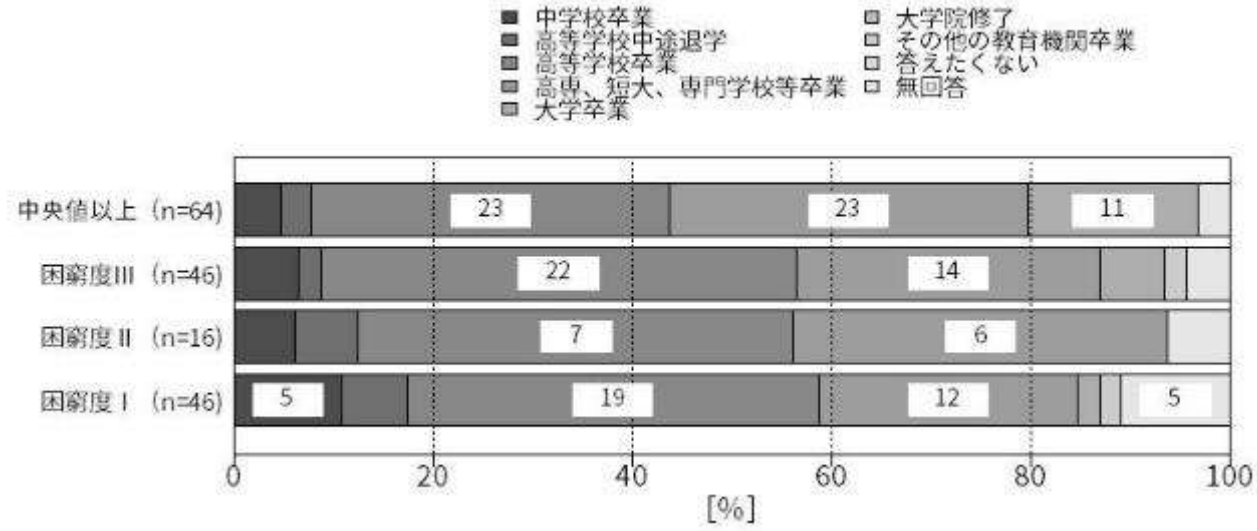
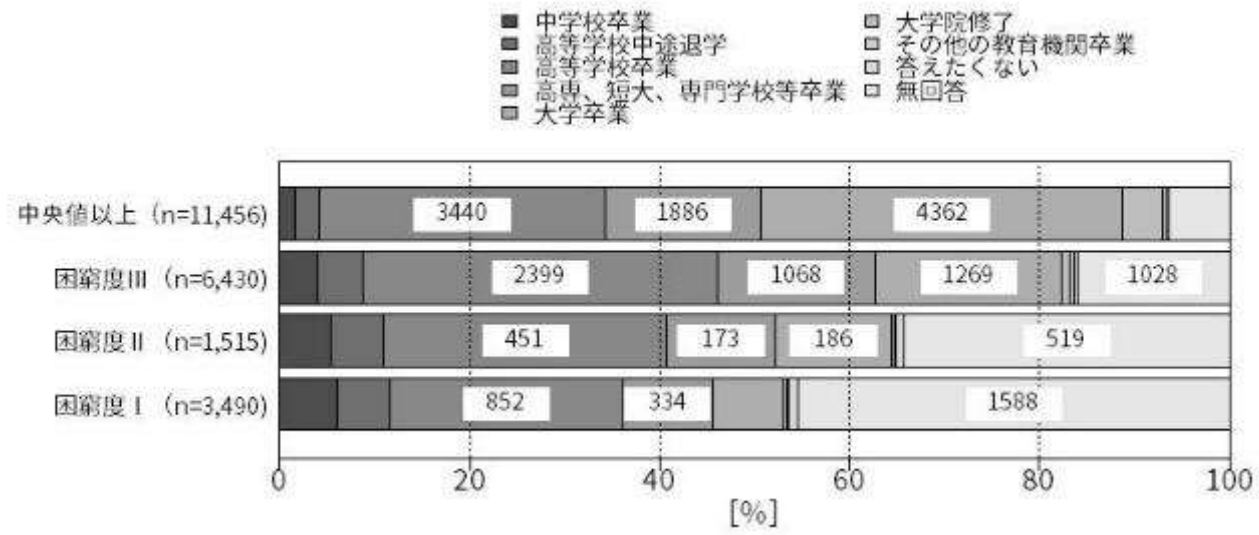


図 173. 困窮度別に見た、母親の最終学歴

困窮度別に母親の最終学歴を見ると、困窮度 I 群の「中学校卒業」は 10.9%、「高校学校中途退学」は 6.5%、「高等学校卒業」の割合が 41.3%であった。

困窮度別に見た、父親の最終学歴（保護者票　問 8）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

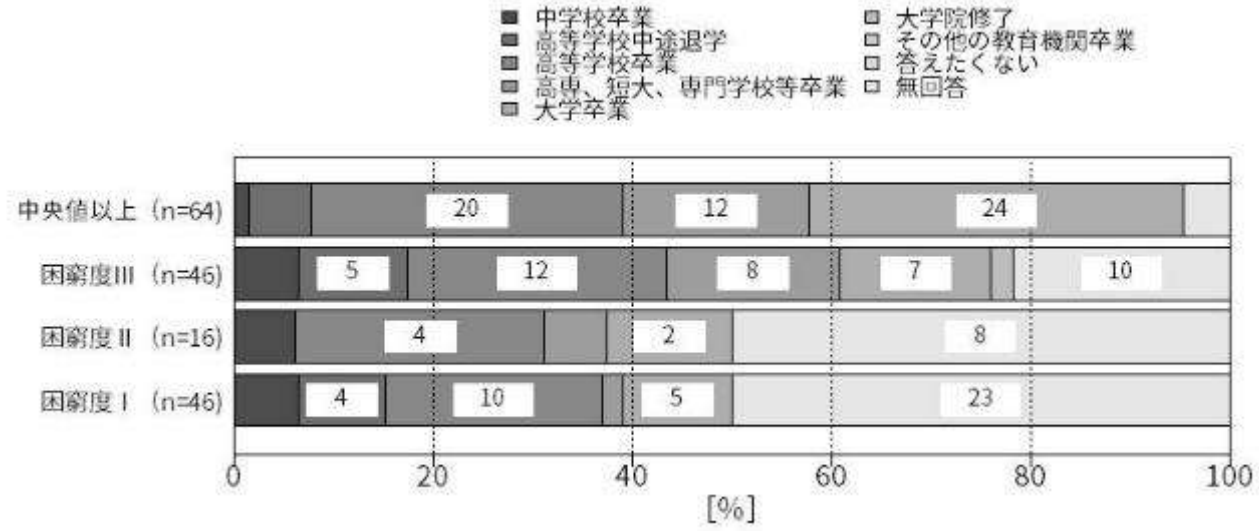
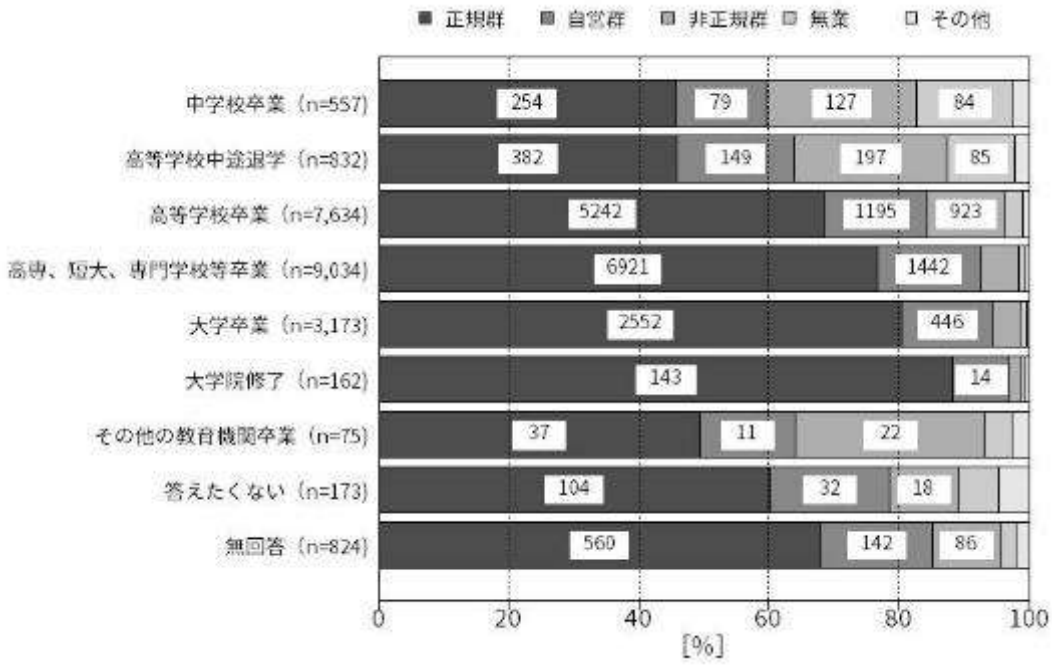


図 174. 困窮度別に見た、父親の最終学歴

困窮度別に父親の最終学歴を見ると困窮度Ⅰ群において、「中学校卒業」と「高等学校中途退学」の割合はそれぞれ 6.5%、8.7%であった。また、困窮度Ⅰ群、困窮度Ⅱ群では無回答の割合も高い（50.0%）。

母親の最終学歴別に見た、就労状況（保護者票　問 8 × 保護者票　就労状況）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

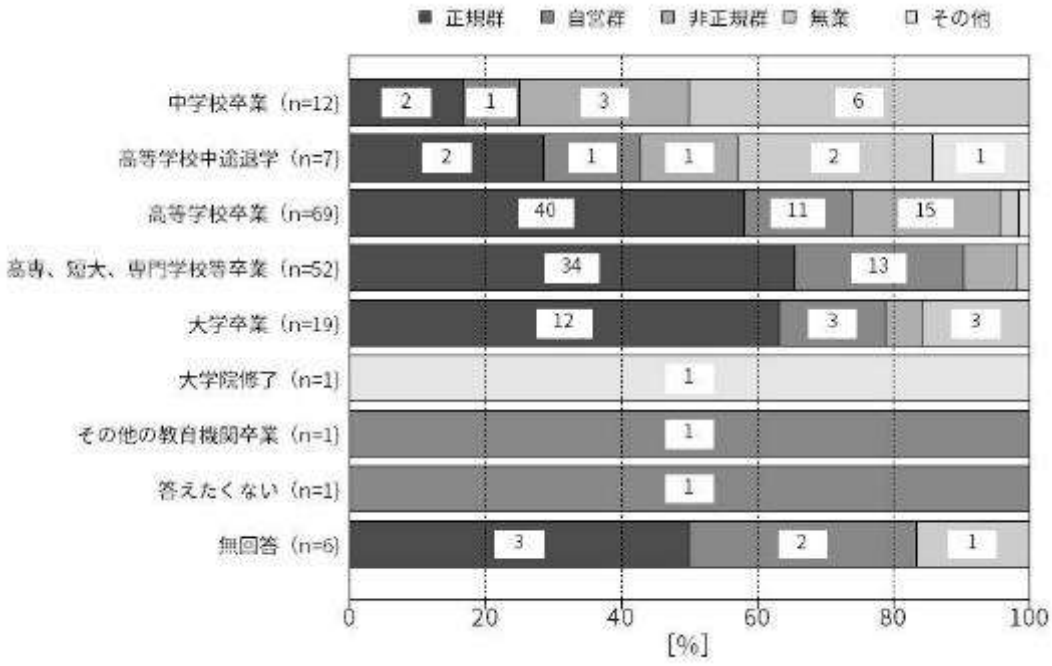
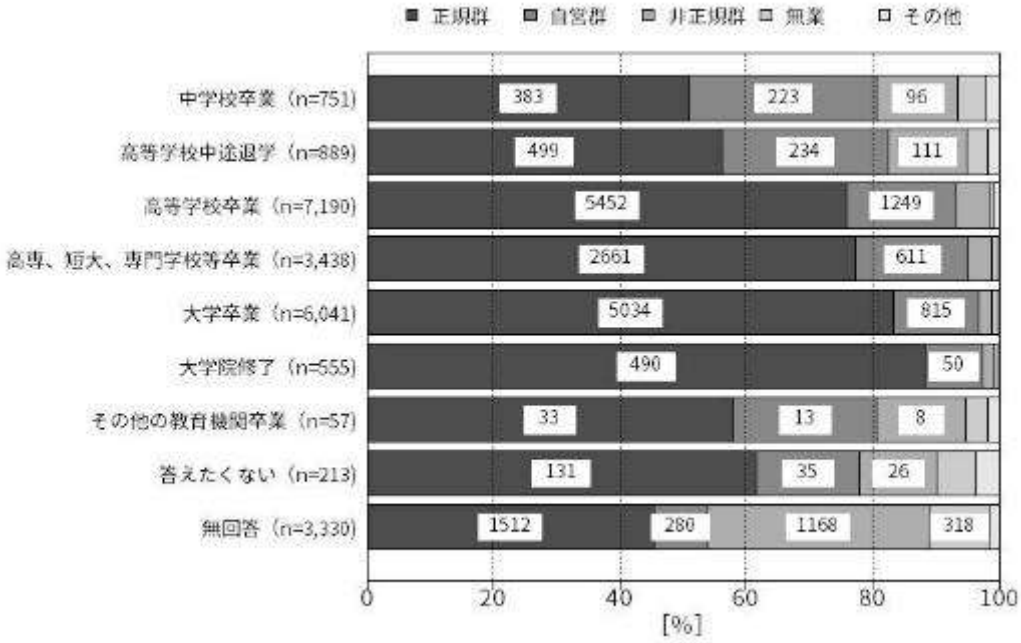


図 175. 母親の最終学歴別に見た、就労状況

母親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「母親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる傾向にあった。

父親の最終学歴別に見た、就労状況（保護者票　問 8 × 保護者票　就労状況）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

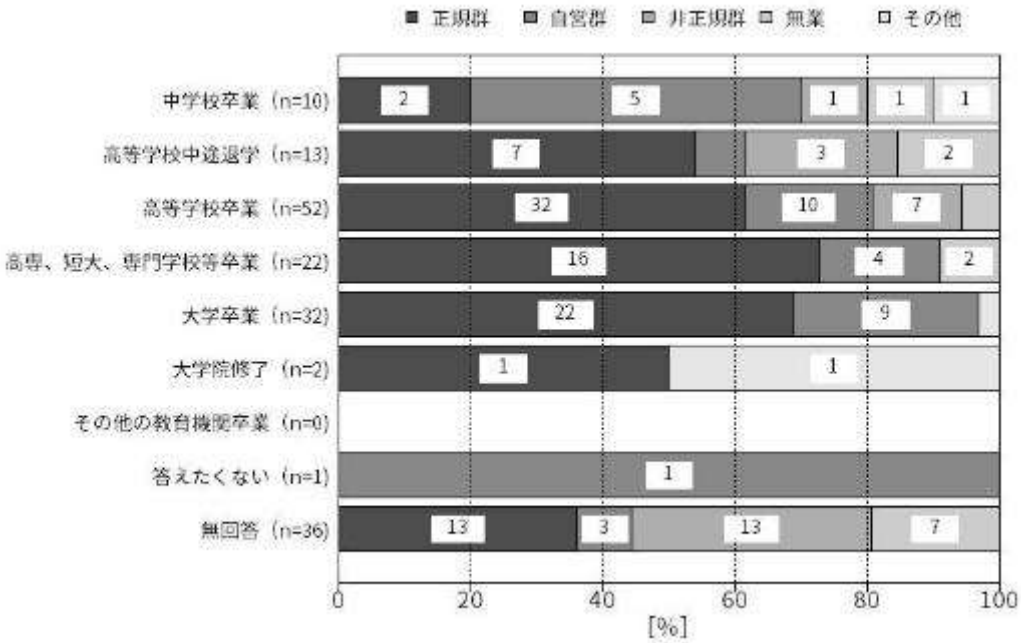
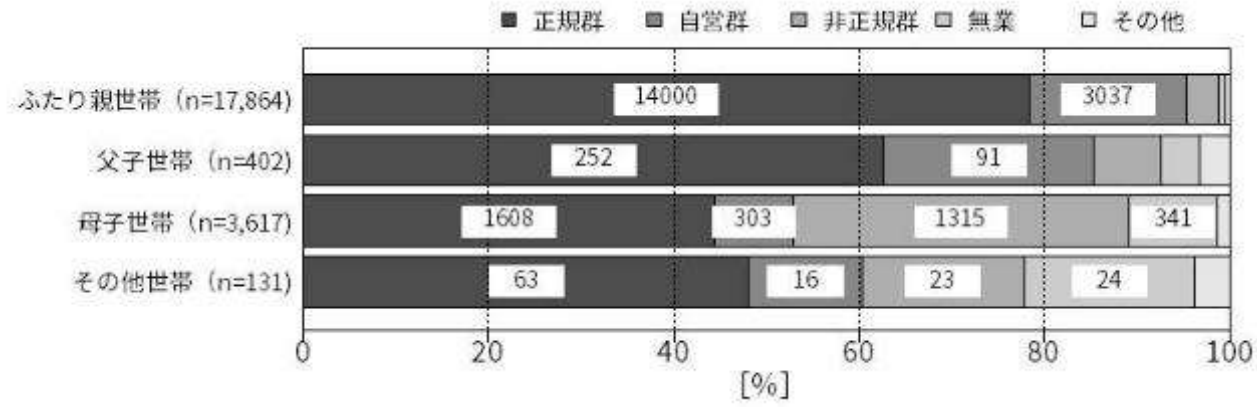


図 176. 父親の最終学歴別に見た、就労状況

父親の最終学歴別に就労状況を見ると、概ね、「父親の最終学歴」が高くなるにつれて「正規群」の割合が高くなる傾向にあった。

世帯構成別に見た、就労状況（保護者票　就労状況）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

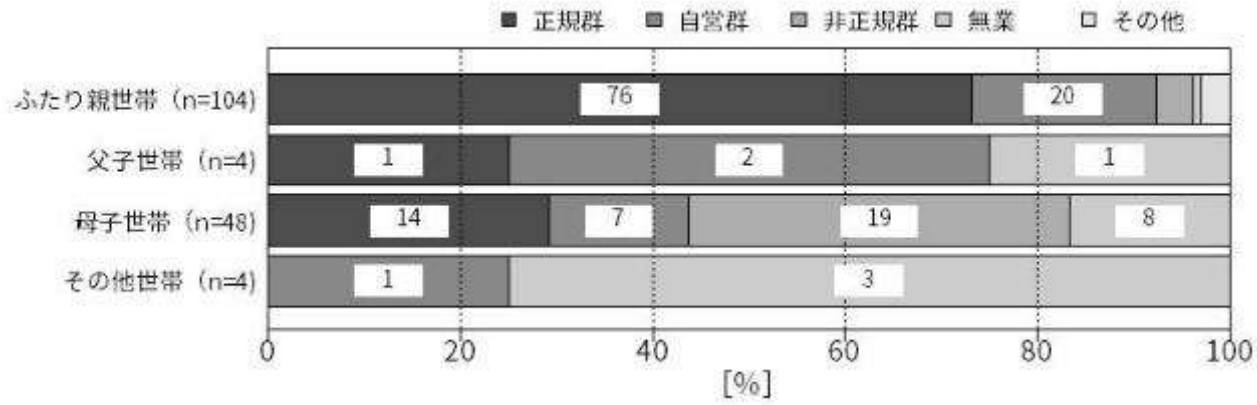
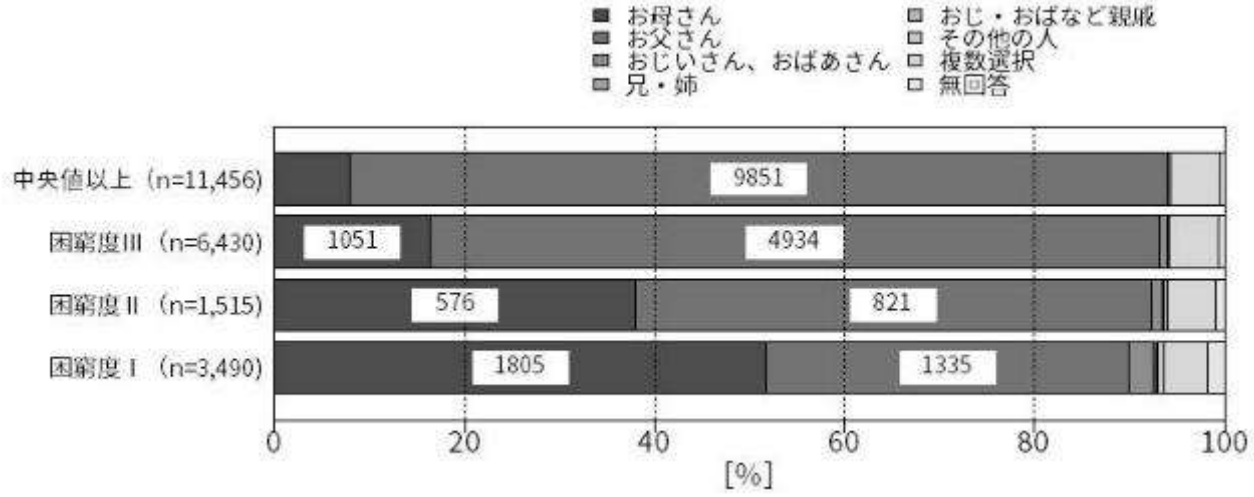


図 177. 世帯構成別に見た、就労状況

世帯構成別に就労状況を見ると、「ふたり親世帯」では「正規群」の割合が 73.1%であったが、「父子世帯」では 25%、「母子世帯」では 29.2%であった。「非正規群」は、「父子世帯」では該当なし、「母子世帯」では 39.6%となっている。

困窮度別に見た、生計の支えとなる人（保護者票　問 30(2)）

＜大阪市 24 区＞



＜大阪市浪速区＞

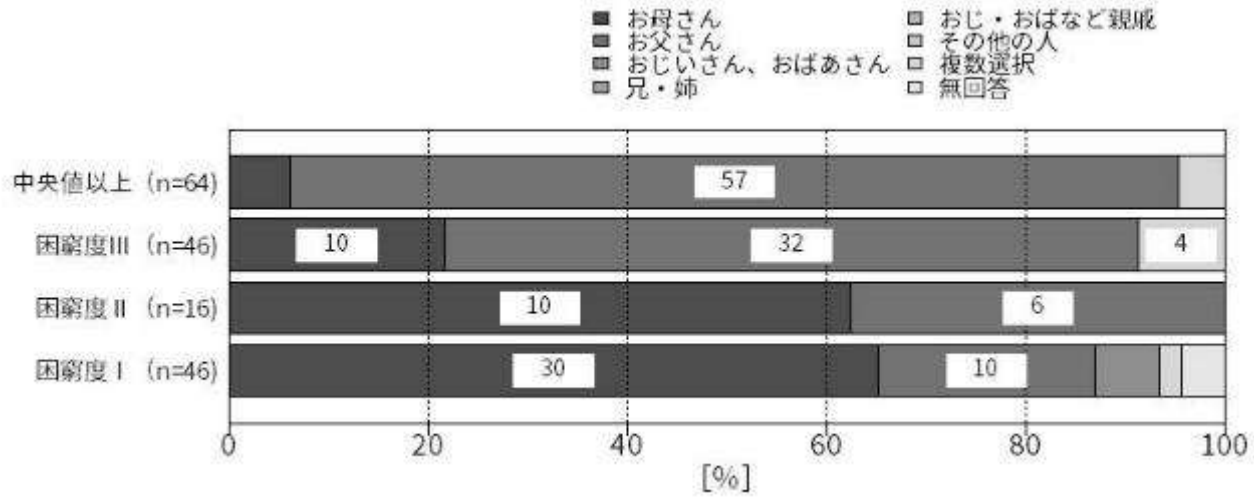


図 178. 困窮度別に見た、生計の支えとなる人

困窮度別に生計の支えとなる人を見ると、中央値以上群では「お父さん」という回答が 89.1%であった。困窮度が高まるにつれ、「お母さん」という回答が多くなる。困窮度Ⅱ群では「お母さん」という回答は 62.5%、困窮度Ⅰ群では 65.2%であった。